

# ごあいさつ



このたびは、弊社の CELSIUS（セルシウス）421 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

CELSIUS 421 は、高速な計算能力と表示能力を備えたワークステーションです。

本書は、CELSIUS 421 のハードウェアの取り扱い方法を説明しています。

あらかじめインストールされているソフトウェアの操作方法については、添付のマニュアル『ソフトウェアガイド』を参照してください。

本書をご覧になり、CELSIUS 421 を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2001 年 1 月

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。  
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

#### 注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

#### 高調波ガイドライン適合品

本ワークステーションには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。従って、本ワークステーションを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要とされる場合があります。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

# 本書の読み方



本書は、CELSIUS 421 の基本的な取り扱い方法を解説しています。本書で解説していない周辺装置の取り扱い方法については、各周辺装置に添付されている取扱説明書をご覧ください。

## 本書の構成

章	内容
第 1 章 はじめに	本ワークステーションの設置から各種ケーブルを接続するまでの方法、電源の入れかた / 切りかた、および媒体の取り扱い方法などを説明しています。 必ずお読みください。
第 2 章 内蔵オプションの取り付け	ハードディスクや拡張カードなどの内蔵オプションを本ワークステーションに取り付ける方法を説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 3 章 BIOS 設定	本ワークステーションのハードウェアの環境を設定する BIOS 設定 (BIOS セットアップ) というプログラムについて説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 4 章 困ったときに	本ワークステーションを使用していて思うように動かないとき、エラーメッセージが表示されたときにどうすればいいかを説明しています。 必要に応じてお読みください。
付録	本ワークステーションの各部の名称や本ワークステーションのお手入れのしかた、本体仕様、注意事項などの説明をしています。 ひととおりお読みください。

## 安全にお使いいただくために



本書には、本ワークステーションを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本ワークステーションをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本ワークステーションをお使いください。

また、本書は、本ワークステーションの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

## 安全上のご注意

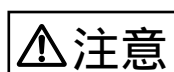


本ワークステーションおよびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。



△ で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。



⊘ で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。



● で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

## 万一、異常が発生したとき



プラグ



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本ワークステーションを落したり、カバーなどを破損した場合は、ワークステーション本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

## 本体の取り扱いについて



プラグ



- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

分解



- 本ワークステーションをお客様自身で分解改造しないでください。感電・火災の原因となります。
- ワークステーション本体のカバーや差し込み口についているカバーは、オプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

水 気



- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所で本ワークステーションを使用しないでください。  
感電・火災の原因となります。

禁 止



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障している状態では本ワークステーションは使用しないでください。  
故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。  
そのまま使用すると感電・火災の原因となります。
- 開口部（通風孔など）からワークステーション本体内部に、金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。  
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションの上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。  
感電・火災の原因となります。
- 台所など湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に本ワークステーションを設置しないでください。  
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションに水をかけたり、濡らしたりしないでください。  
感電・火災の原因となります。
- 添付の電源ケーブル以外は使用しないでください。  
感電・火災の原因となります。
- カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差したり、電源を入れたりしないでください。  
感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。  
また、タコ足配線をしないでください。  
感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。  
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。

禁 止



- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。  
故障の修理は、担当営業員または担当保守員にご依頼ください。  
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。  
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

感 電



- 電源ケーブルを抜いたあと、プラグに触らないでください。  
感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。  
感電の原因となります。

指 示



- 電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。  
そのまま使用すると、火災の原因となります。

アース



- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。  
アース接続をしないと感電のおそれがあります。  
また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。  
火災の原因となります。



警告



- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。  
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

プラグ



- 本ワークステーションを移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなどもはずしてください。  
作業は足元に十分注意して行ってください。  
電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、本ワークステーションが落下したり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本ワークステーションを長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。  
感電・火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

禁止



- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。  
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。
- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。  
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。  
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、ワークステーション本体内部が高温になり、火災の原因となることがあります。
- 使用中の装置は布などでおおったり、包んだりしないでください。  
熱がこもり、火災の原因となることがあります。

## 注意



- 電源ケーブルを束ねて使用しないでください。  
発熱して、火災の原因となることがあります。
- 本ワークステーションの上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。  
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。  
倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。

### 指 示



- 電源ケーブルを接続するコンセントは、本ワークステーションのそばに設けてください。  
火災の原因となることがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。  
火災・故障の原因となることがあります。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず2人以上で行ってください。  
けがの原因となることがあります。

### 指 示



- CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW をセットおよび取り出すときには、トレイに指などを入れないでください。  
けがの原因となります。
- フロッピーディスク、DAT、MO をセットおよび取り出すときには、差し込み口に指などを入れないでください。  
けがの原因となることがあります。
- レーザ光の光源部を直接見ないでください。  
目を傷める原因となることがあります。

## オプションの取り扱いについて



- オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。
- オプション装置を接続する場合は装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。  
やけどの原因となります。
- オプション装置を接続する場合は、弊社純正品をご使用ください。  
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- LAN コネクタには指などを入れないでください。  
感電の原因となります。

## 電池の取り扱いについて



- 使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。  
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



- 電池はショートさせたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。  
電池の破裂、液もれにより、けが・火災や周囲を汚す原因となることがあります。
- 使用済みの電池を廃棄する場合は、他のゴミと一緒に捨てないでください。  
火中に投げると破裂の恐れがあります。

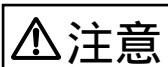
## その他



指 示



- 梱包に使用しているポリ袋はお子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。  
窒息の原因となります。



指 示



- 本ワークステーションを無理な姿勢で長時間使い続けると、腰痛や腱鞘炎の原因となる場合があります。以下に示すような正しい姿勢で使用し、1時間に10分以上休憩をとってください。
  - いすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
  - いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
  - ひじは90度以上に伸ばして操作する。
- ディスプレイを長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等の目の傷害の原因となる場合があります。1時間に10分以上の休憩をとってください。また、なるべく画面を下向きに見る位置にする、意識的にまばたきをする、場合によっては目薬をさすなどしてください。
- ヘッドフォンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音を長時間続けて聴くと、聴力が低下するなど、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- ヘッドフォンをしたまま電源スイッチを入れたり切ったりしないでください。  
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 本ワークステーションは、他のゴミと一緒に捨てないでください。  
この装置はリチウム電池を使用しており、火中に投げると破裂の恐れがあります。

## 装置の廃棄

本ワークステーションを廃棄する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本ワークステーションは産業廃棄物として処理する必要があります。

## 警告ラベル

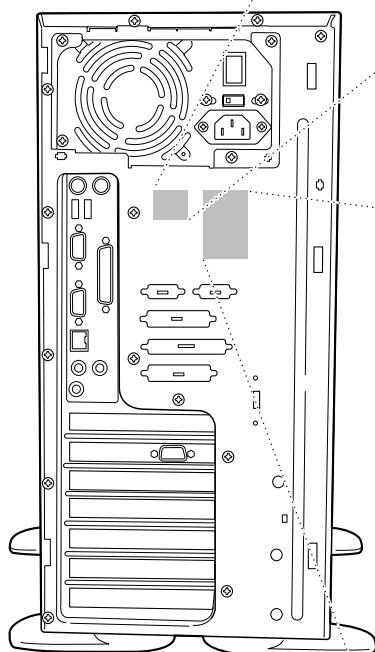


本製品には、図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。また、汚れてメッセージなどが見えにくくなった場合は、担当営業員または担当保守員まで連絡してください。

**CAUTION**  
ELECTROSTATIC  
SENSITIVE  
DEVICES



保守時は  
リストストラップ着用



**⚠ 警告**  
**感 電**

内蔵オプションの取り付け等で分解する場合は、感電する恐れがありますので、本体及び接続している周辺装置の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから行って下さい。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A  
MADE IN JAPAN

**FUJITSU LIMITED**

# 本書の表記について



## キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[ ] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [ ] キーなど

## ボタンの表記

画面に表示されるボタンは、次のように[ ]で囲んで記述しています。

例：[OK]

## コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: b:
```

の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

## 本文中の表記

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。



### ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



### ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。

## 連続する操作の表記について

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「-」でつないで記述しています。

例：[スタート]をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」をクリックします。

## 画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのワークステーションに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

## イラストについて

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、使用するワークステーションと異なる場合があります。ご了承ください。

## 製品の呼びかたについて

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記しています。

Windows NT

Microsoft Windows NT Workstation operating system Version 4.0 の略です。

Windows 2000

Microsoft Windows 2000 Professional operating system の略です。

本ワークステーションまたはワークステーション本体

CELSIUS 421 の略です。



# 目次

## 第 1 章 はじめに.....21

<b>1</b>	<b>各部の名称と働き .....</b>	<b>22</b>
	ワークステーション本体前面 .....	22
	ワークステーション本体背面 (基本モデル).....	24
	ワークステーション本体内部 (基本モデル).....	26
	キーボード (OADG キーボード (109 キー)).....	27
	マウス .....	27
<b>2</b>	<b>設置 .....</b>	<b>28</b>
	設置する場所について .....	28
	テレビ / ラジオなどの受信障害防止について .....	30
<b>3</b>	<b>接続 .....</b>	<b>31</b>
	ディスプレイ / キーボード / マウス / LAN ケーブルの接続 .....	32
	電源ケーブルの接続 .....	34
	すべての接続を終えたら .....	35
<b>4</b>	<b>電源を入れる .....</b>	<b>36</b>
	電源を入れるときの注意事項 .....	36
	電源の入れかた .....	36
<b>5</b>	<b>電源を切る .....</b>	<b>39</b>
	電源を切るときの注意事項 .....	39
	電源の切りかた .....	39
<b>6</b>	<b>リセットする .....</b>	<b>41</b>
	ソフトリセット .....	41
	ハードリセット .....	42
<b>7</b>	<b>フロッピーディスクについて .....</b>	<b>43</b>
<b>8</b>	<b>CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について .....</b>	<b>45</b>
<b>9</b>	<b>ハードディスクについて .....</b>	<b>48</b>

## 第 2 章 内蔵オプションの取り付け.49

<b>1</b>	<b>内蔵オプションを取り付ける前に .....</b>	<b>50</b>
	内蔵オプションとは .....	50
	取り扱い上の注意 .....	51
<b>2</b>	<b>各カバーの取り外し / 取り付け .....</b>	<b>52</b>
	フロントカバー / サイドカバーの取り外し .....	52
	フロントカバー / サイドカバーの取り付け .....	53
<b>3</b>	<b>メモリの取り外し / 取り付け .....</b>	<b>54</b>

<b>4</b>	<b>拡張カードの取り付け／取り外し .....</b>	<b>58</b>
	拡張カードの取り付け .....	60
	拡張カードの取り外し .....	61
<b>5</b>	<b>各種ドライブの取り付け .....</b>	<b>62</b>
	ファイルベイへのドライブの取り付け .....	64
	ファイルベイからのドライブの取り外し .....	65
	ハードディスクドライブの内蔵ハードディスクベイへの取り付けと取り外し .....	66

## 第3章 BIOS 設定 ..... 71

<b>1</b>	<b>BIOS セットアップとは .....</b>	<b>72</b>
<b>2</b>	<b>BIOS セットアップの操作方法 .....</b>	<b>73</b>
	BIOS セットアップの操作方法 .....	73
	Boot Menu の操作方法 .....	75
<b>3</b>	<b>BIOS セットアップのメニューと項目の詳細 .....</b>	<b>76</b>
	System Information .....	77
	Product Information .....	79
	Disk Drives .....	80
	Onboard Peripherals .....	84
	Power Management .....	88
	Boot Options .....	91
	Date and Time .....	93
	System Security .....	94
	System Event Log .....	97
	Advanced Options .....	99
	Load Default Settings .....	103
	Abort Settings Change .....	103
	パスワードを忘れてしまったときには .....	103

## 第4章 困ったときに ..... 105

<b>1</b>	<b>エラーメッセージ .....</b>	<b>106</b>
	エラーメッセージ .....	106
<b>2</b>	<b>こんなときには .....</b>	<b>109</b>
<b>3</b>	<b>どうしても解決できないときは .....</b>	<b>111</b>
	機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所 .....	111
	お問い合わせ前の確認シート .....	112

## 付録 ..... 113

<b>1</b>	<b>システムボード .....</b>	<b>114</b>
<b>2</b>	<b>リソース一覧 .....</b>	<b>116</b>
<b>3</b>	<b>ドライブの設定 .....</b>	<b>117</b>
<b>4</b>	<b>コネクタ仕様 .....</b>	<b>118</b>
<b>5</b>	<b>お手入れ .....</b>	<b>121</b>
	ワークステーション本体のお手入れ .....	121

	キーボードのお手入れ .....	121
	CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のお手入れ .....	121
	マウスのお手入れ .....	122
	フロッピーディスクドライブのクリーニング .....	123
<b>6</b>	<b>保守修理サービスのご案内 .....</b>	<b>124</b>
	契約サービス .....	124
	スポット保守サービス .....	124
<b>7</b>	<b>保証について .....</b>	<b>125</b>
<b>8</b>	<b>その他の注意事項 .....</b>	<b>126</b>





# 1 はじめに

この章は、各部の名称と働きや電源の入れかた / 切りかたなど、本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

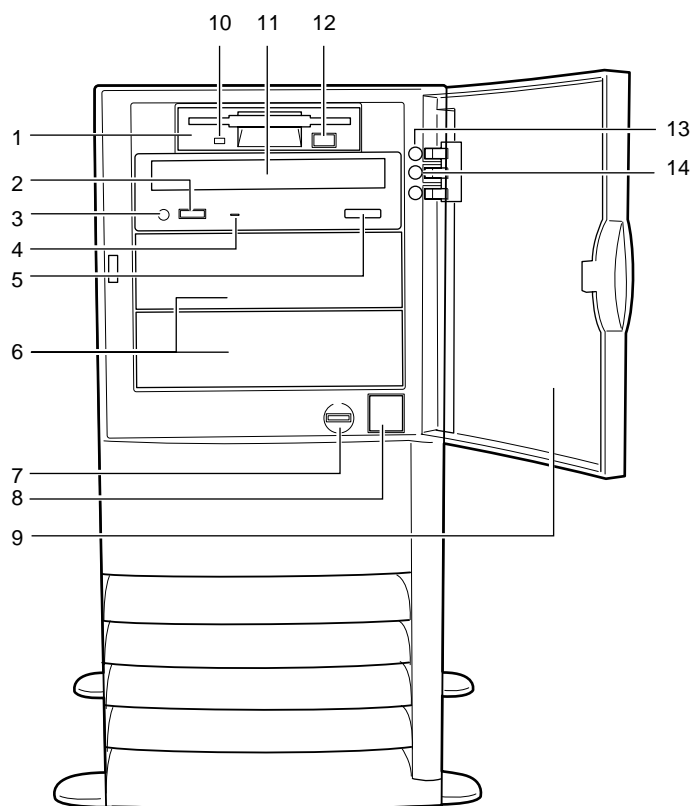
## Contents

1 各部の名称と働き .....	22
2 設置 .....	28
3 接続 .....	31
4 電源を入れる .....	36
5 電源を切る .....	39
6 リセットする .....	41
7 フロッピーディスクについて .....	43
8 CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について .....	45
9 ハードディスクについて .....	48

# 1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、キーボードおよびマウスの各部の名称と働きを説明します。

## ワークステーション本体前面

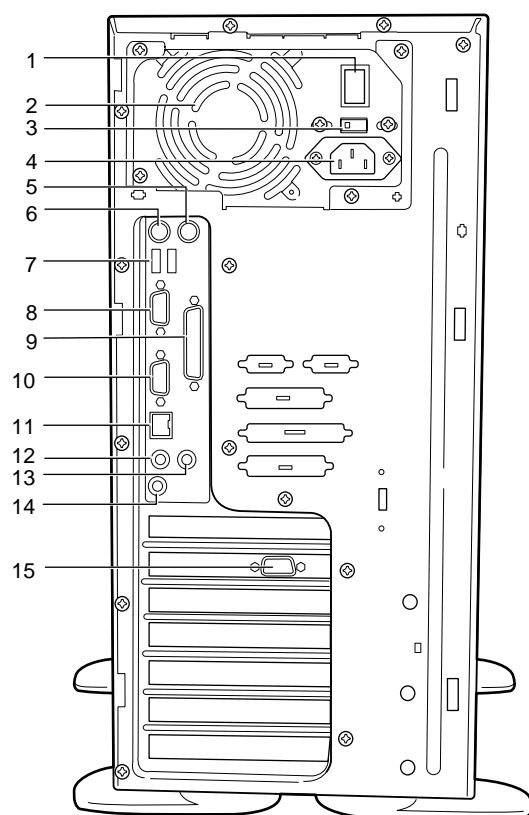




- 1 フロッピーディスクドライブ  
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりします。
- 2 ヘッドホンボリューム（音楽 CD のみ）\*  
ヘッドホンを接続したときに、ヘッドホンの音量を調整します。
- 3 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）\*  
市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。

- 4 **BUSY ランプ \***  
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW からデータを読み込んでいるとき、CD-R/RW ヘデータを書き込んでいるとき、または音楽 CD を再生しているときに点灯します。
- 5 **EJECT ボタン \***  
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW をセットするときや取り出すときに押します。
- 6 **ファイルベイ**  
各種ドライブを取り付けます。
- 7 **リセットスイッチ**  
ハードリセットするときに押します。
- 8 **電源スイッチ**  
ワークステーション本体の電源を入れるときや、スタンバイにするときに押します。
- 9 **フロントパネル**
- 10 **フロッピーディスクアクセス表示ランプ**  
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。
- 11 **CD-ROM ドライブ**  
DVD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ (カスタムメイドオプション選択時)  
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のデータやプログラムを読み出したり、音楽用 CD を再生したりします。
- 12 **フロッピーディスク取り出しボタン**  
フロッピーディスクを取り出すときに押します。フロッピーディスクアクセス表示ランプが点灯しているときは押さないでください。
- 13 **電源ランプ**  
ワークステーション本体に電源が入っているときは緑色に点灯します。  
スタンバイ時はオレンジ色に点灯します。
- 14 **ハードディスクアクセス表示ランプ**  
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。










\* 搭載するドライブによって位置が異なります。

## ワークステーション本体背面（基本モデル）

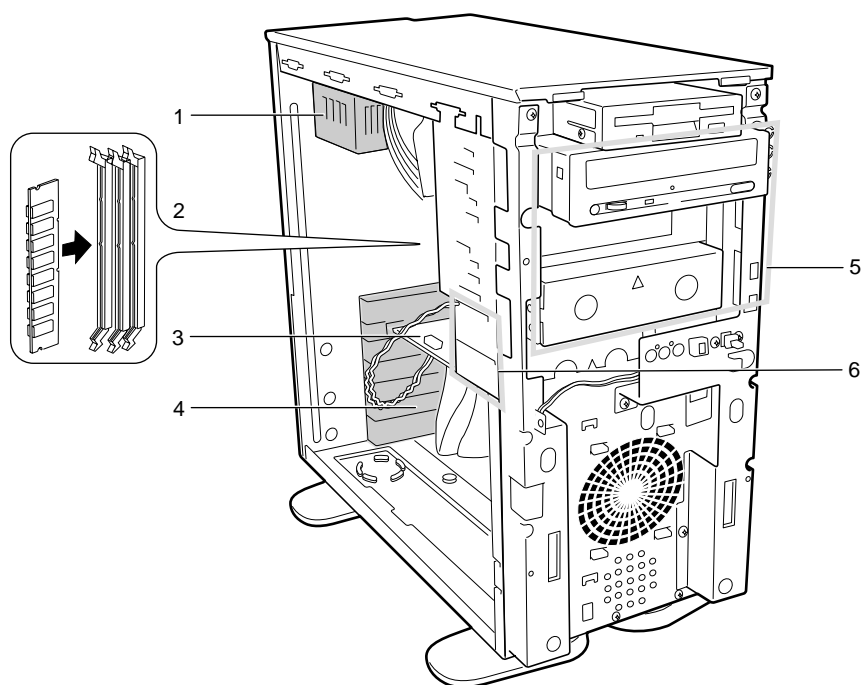


- 1 メインスイッチ  
ワークステーション本体の主電源スイッチです。
- 2 通風孔（冷却ファン）  
ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部です。
- 3 電源  
国内専用のため、115V（出荷時設定）のままお使いください。  
115V に設定されていない場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
- 4 インレット  
ワークステーション本体の電源ケーブルを接続します。
- 5 マウスコネクタ（)  
マウスのケーブルを接続します。
- 6 キーボードコネクタ（)  
キーボードのケーブルを接続します。



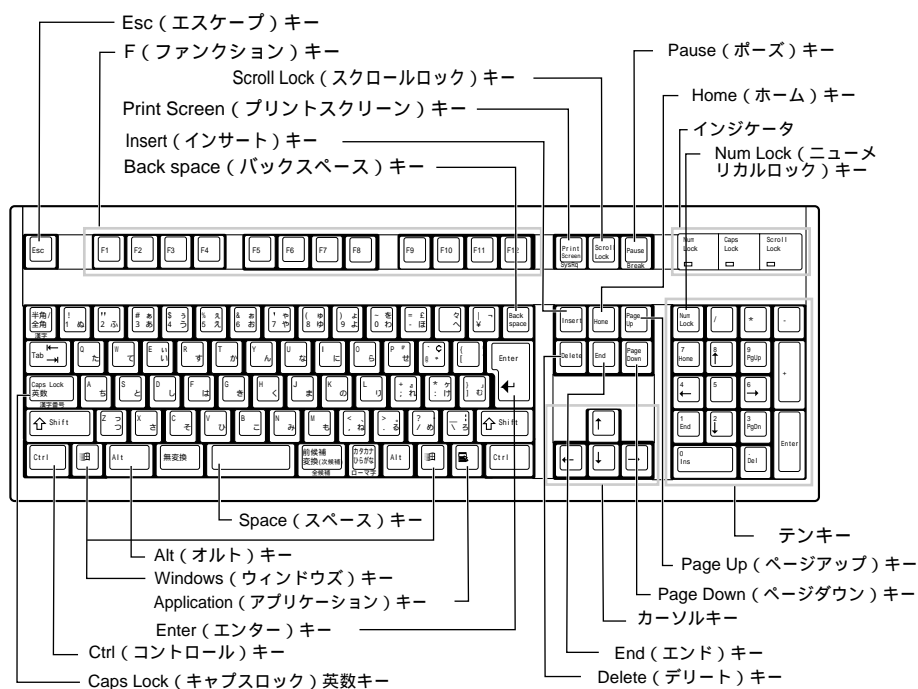
- 7 USB コネクタ (  )  
USB 規格の周辺装置を接続します。  
Windows NT ではサポートしておりません。
- 8 シリアルコネクタ 2 (  )  
モデムなど RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。
- 9 パラレルコネクタ (  )  
プリンタのケーブルを接続します。
- 10 シリアルコネクタ 1 (  )  
モデムなど RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。
- 11 LAN コネクタ ( LAN )  
非シールド・ツイストペア ( UTP ) ケーブルを接続します。  
100Mbps で使用する場合には、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。  
 LED  
LED の意味は、以下のとおりです。  
下部 LED 点灯：10Mbps の LINK を確立  
下部 LED 点滅：10Mbps でデータを転送中  
上部 LED 点灯：100Mbps の LINK を確立  
上部 LED 点滅：100Mbps でデータを転送中
- 12 LINE IN 端子 (  )  
オーディオ機器の入力端子を接続します。
- 13 LINE OUT 端子 (  )  
スピーカーを接続します。
- 14 マイク端子 (  )  
マイクを接続します。
- 15 ディスプレイコネクタ (  )  
ディスプレイのケーブルを接続します。

## ワークステーション本体内部（基本モデル）

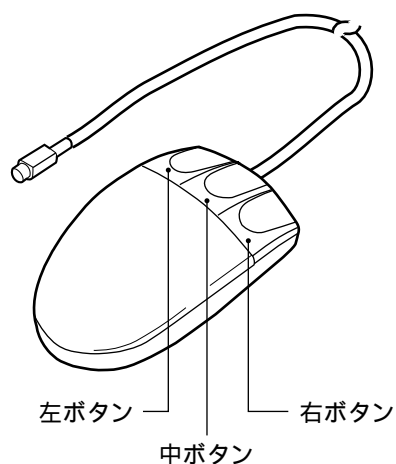


- 1 電源ユニット
- 2 メモリ
- 3 ビデオカード
- 4 拡張スロット  
拡張カードを取り付けます。
- 5 ファイルベイ  
各種ドライブを取り付けます。  
下からファイルベイ -1 ~ -3 と並んでいます。
- 6 内蔵ハードディスクベイ  
内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。  
下から内蔵ハードディスクベイ -1、-2 と並んでいます。

## キーボード (OADG キーボード (109 キー))



## マウス



1

はじめに

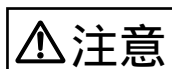
## 2 設置

本ワークステーションの設置方法、ご使用になるうえでの注意事項について説明します。

### 設置する場所について

本ワークステーションは、水平で安定した場所に設置し、次の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温（35℃以上）になる場所
- 10℃未満の低温になる場所
- 電源ケーブルに足がひっかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所



装置の開口部（通風孔や冷却ファン）をふさがないでください。  
通風孔や冷却ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因  
となることがあります。

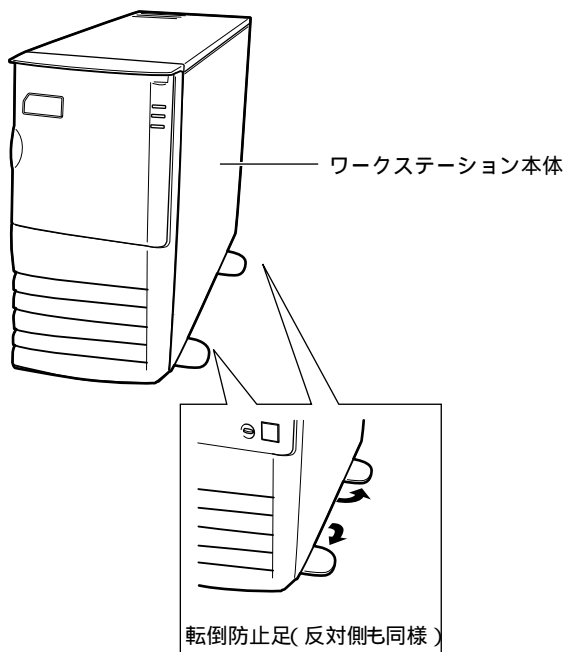


#### ポイント

ワークステーション本体は、壁などから 10cm 以上離して設置  
してください。

**ポイント**

ワークステーション本体を安定させるため、必ず転倒防止足を開いて設定してください。



## テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、以下のことにご注意ください。

### 本ワークステーション側での注意点

- 本ワークステーションのカバーを外した状態で、使用しないでください。
- 周辺装置と接続するケーブルは、指定のケーブルを使用し、それ以外のケーブルは使用しないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

### テレビやラジオ側での注意点

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートの本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルを使用してください。

本ワークステーションや周辺装置などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺装置など全体の電源を切ることで確認することができます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、担当営業員または担当保守員までご相談ください。

### 3 接続

ワークステーション本体にディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

1

はじめに

#### 警告

アース



- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。  
アース接続をしないと感電の恐れがあります。  
また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。  
火災の原因となります。

感電



- ディスプレイ、キーボード、マウス、LAN ケーブル、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている周辺装置の電源スイッチを切り、メインスイッチ側を「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。
- ディスプレイ、キーボード、マウスを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。  
感電・火災または故障の原因となることがあります。

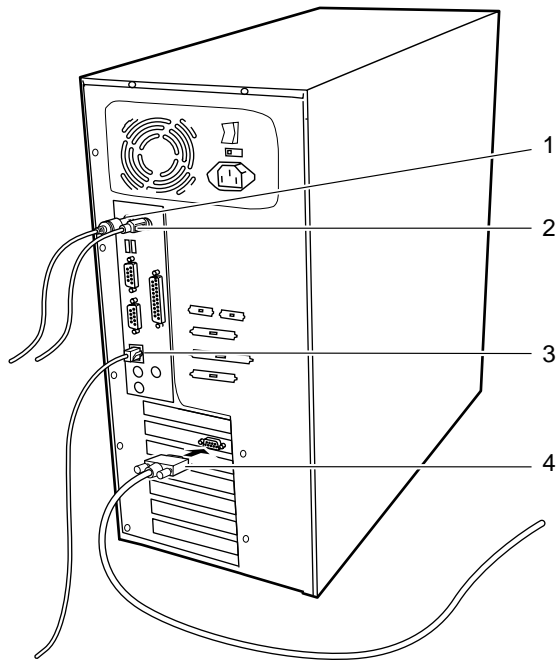
#### 注意

指示



- ケーブルの接続は、間違いがないようにしてください。  
誤った接続状態で使用すると、ワークステーション本体および周辺装置が故障する原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。  
けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。

## ディスプレイ / キーボード / マウス / LAN ケーブルの接続



### (1) キーボードの接続

キーボードケーブルのコネクタをワークステーション本体のキーボードコネクタに接続します。

### (2) マウスの接続

マウスケーブルのコネクタをワークステーション本体のマウスコネクタに接続します。

### (3) LAN ケーブルの接続

ツイストペアケーブルの片方のコネクタをワークステーション本体の LAN コネクタに接続します。もう片方を HUB などのネットワークのコネクタに接続します。



#### ポイント

LAN ケーブルは、ツイストペアケーブルを使用します。添付されていないので購入してください。



#### (4) ディスプレイケーブルの接続

ディスプレイケーブルのコネクタをワークステーション本体のディスプレイコネクタに接続して、ケーブルのコネクタのネジを締めます。

## 電源ケーブルの接続

ディスプレイなどの周辺装置を接続し終えたら、次の点に注意して本体の電源ケーブルを接続してください。

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。
- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。



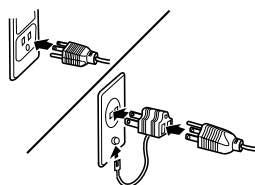
### ポイント

電源ケーブルは、タコ足配線をしないでください。  
また、キーボードケーブルやマウスケーブルとからまないようにしてください。

- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 2 ピンのコンセントに接続する場合は、添付の変換プラグを使用してください。また、その場合、必ずアース線を接続してください。
- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
- 長期間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。

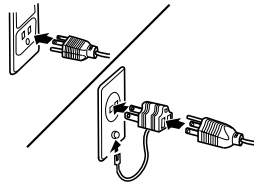
## ワークステーション本体の電源ケーブルの接続

- 1 電源ケーブル（本体用）のプラグをワークステーション本体背面のインレットに接続します。
- 2 電源ケーブルのもう一方のプラグを、電源コンセントに接続します。コンセントに接続する際にコンセントが2 ピンの場合は、ワークステーション本体に添付の変換プラグを取付けてから、コンセントに接続します。アダプタプラグについているアース線を、アース端子にネジ止めします。



## ディスプレイの電源ケーブルの接続

- 1 電源ケーブル（本体用）のプラグをディスプレイ背面のインレットに接続します。
- 2 電源ケーブルのもう一方のプラグを、電源コンセントに接続します。  
コンセントに接続する際にコンセントが2ピンの場合は、ディスプレイに添付の変換プラグを取付けてから、コンセントに接続します。  
アダプタプラグについているアース線を、アース端子にネジ止めします。



## すべての接続を終えたら

すべての接続を終えたら、添付のユーザー登録カードに必要事項を記入して、投函してください。

ユーザー登録カードは、各社が自社製品のユーザーを把握し、さまざまな情報を提供するために利用するものです。

ソフトウェアのバージョンアップ（ソフトウェアの機能を強化し、版数をあげること）や電話相談などは、ユーザー登録をしていることが条件となりますので、忘れずに投函してください。

## 4 電源を入れる

---

ここでは、電源の入れかたについて説明します。

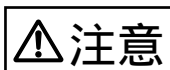
### 電源を入れるときの注意事項

---

- 画面に何も表示されない場合は、ディスプレイの電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。
- 自己診断 (POST) の結果、異常があればメッセージが表示されます。  
エラーメッセージについては「第 4 章 困ったときに」の「1 エラーメッセージ」( 106 ページ) を参照してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れる場合、または電源を入れた後、すぐに電源を切る場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。

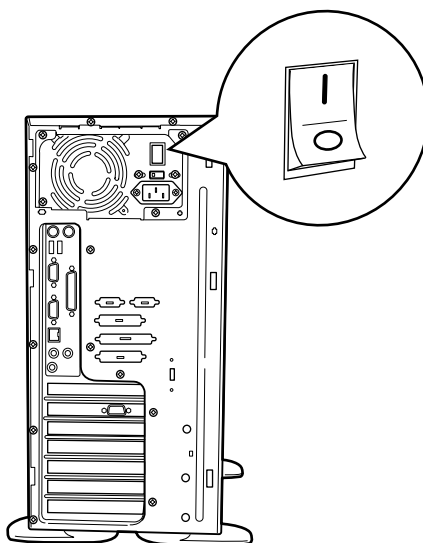
### 電源の入れかた

---

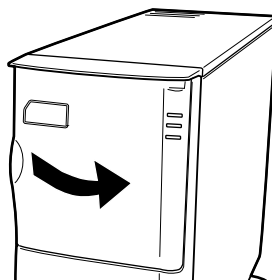


- 電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
- 冬季など装置が冷えきっているときは、温度を急激に上げないようにして装置が十分暖まってから電源を入れてください。  
装置内部に水滴がつき、故障の原因となることがあります。

- 1 本体背面にあるメインスイッチが「I」側になっていることを確認します。



- 2 ディスプレイの電源スイッチを押してディスプレイの電源を入れます。  
ディスプレイの電源ランプが点灯します。  
この時点では、画面には何も表示されません。
- 3 フロントパネルを開けます。



- 4 ワークステーション本体前面の電源スイッチを押します。  
電源ランプが緑色に点灯した後で、システムが起動します。



#### ポイント

- 本ワークステーションをご購入後、初めてワークステーションの電源を入れたあとは、オペレーティングシステムのセットアップを行います。  
本ワークステーションに添付されているマニュアル『ソフトウェアガイド』を参照して必ずセットアップを行ってください。
- 本ワークステーションをご購入後、内蔵オプションを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源を切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

# 5 電源を切る

ここでは、電源の切りかたについて説明します。

## 電源を切るときの注意事項

- 電源を切る前にすべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクやハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認してください。点灯中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりする可能性があります。
- 電源を切った後すぐに電源を入れる場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。
- 電源を完全に切断するには、本体背面のメインスイッチを「O」側にしてください（電源スイッチを使用してもワークステーション本体の電源は完全に切断されません）。

## 電源の切りかた

### Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする」をクリックし、「はい」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。



#### ポイント

- 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されて、電源が自動的に切れない場合は、電源スイッチを押して電源を切ってください。
- 次のように電源を切ることもできます。
  - 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。  
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「シャットダウン後、電源を切る」をクリックして「OK」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。

## Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。



### ポイント

- 次のように電源を切ることができます。
- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。  
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。



## 6 リセットする

1

はじめに

ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアが何らかの理由で動かなくなった場合などに、リセットを行います。ここでは、リセットの方法について説明します。



### ポイント

リセットすると、メモリ内のデータが消失します。リセットする前に、必要なデータは保存してください。

### ソフトリセット

#### Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。  
本ワークステーションがリセットされます。



### ポイント

- 次のようにリセットすることもできます。
- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。  
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「シャットダウン後、再起動する」をクリックして「OK」をクリックします。  
本ワークステーションがリセットされます。

## Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。  
本ワークステーションがリセットされます。



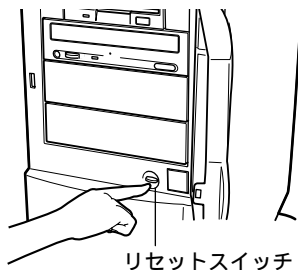
### ポイント

- 次のようにリセットすることもできます。
- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。  
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。  
本ワークステーションがリセットされます。

## ハードリセット

ハードリセットは、各種オプションカード、ハードディスクドライブ、フロッピーディスクドライブなどの周辺装置も初期化したい場合に行います。

- 1 フロントパネルを開けます。
- 2 本ワークステーションのリセットスイッチを 1 秒程度押してから戻します。



### ポイント

何らかの原因によって、本ワークステーションが停止し、ソフトリセットができない場合は、上記の方法でリセットを行ってください。  
また、本ワークステーションが停止しても、むやみに電源を切らないでください。  
ハードディスクの故障の原因となることがあります。

## 7 フロッピーディスクについて

本ワークステーションには、フロッピーディスクドライブが内蔵されています。フロッピーディスクは、プログラムや情報を保存するための媒体です。ここでは、フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

1

はじめに

### 取り扱い上の注意

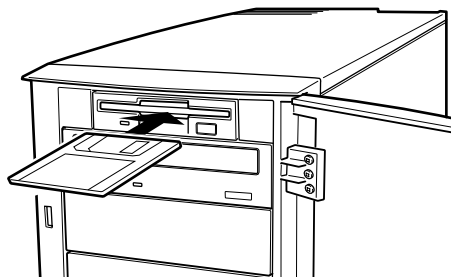
故障の原因となりますので、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

### フロッピーディスクのセット／取り出し

#### フロッピーディスクのセット

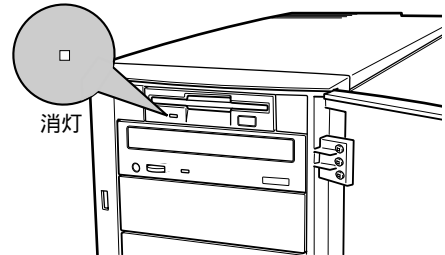
- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。  
「カシャッ」と音がして、フロッピーディスクがセットされます。



## フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認します。

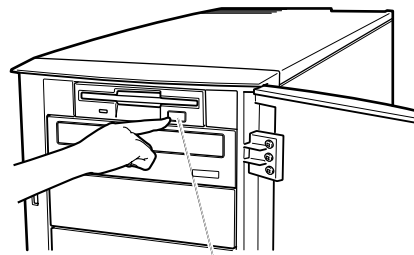
フロッピーディスク  
アクセス表示ランプ



### ポイント

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。  
データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。  
フロッピーディスクが出てきます。



フロッピーディスク  
取り出しボタン

## 8 CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について

1

はじめに

本ワークステーションには、CD-ROM ドライブ、またはカスタムメイドオプションで DVD-ROM、CD-R/RW ドライブが内蔵されています。

ここでは、CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW（以下、まとめて媒体とします）の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

### 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、媒体を使用するときは、次の点に注意してください。

- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- 鏡面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、かわいた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください（クリーナーなどは使用しないでください）。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

### ドライブの注意事項

- 「媒体の注意事項」が守られていない媒体、ゆがんだ媒体、割れた媒体、ヒビの入った媒体はお使いにならないでください。故障の原因となります。
- 本ワークステーションは、円形の媒体のみお使いになれます。円形以外の異形媒体は、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形媒体をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 別売の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。



## ポイント

- CD-ROM は、音楽用 CD（コンパクトディスク）に、音の代わりにさまざまな情報（文字など）を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本ワークステーションでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません（カスタムメイドオプションで CD-R/RW ドライブを選択した場合を除く）
- 本ワークステーションでは、下図のマークがついた CD をご利用になれます。



\* 印のついた CD は、CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、書き込みができます。

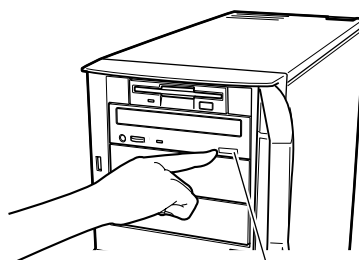
なお、CD-R/RW に書き込みを行うには、別途アプリケーションが必要です。

- カスタムメイドオプションで DVD-ROM ドライブを選択された場合は、DVD-ROM や DVD-VIDEO がご利用になれます。  
なお、DVD-VIDEO や VIDEO CD を再生するには、別途アプリケーションが必要です。

## 媒体のセット / 取り出し

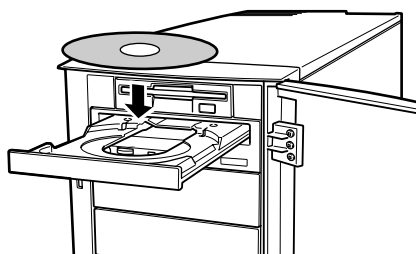
### 媒体のセット

- 1 EJECT ボタンを押します。  
媒体をセットするトレーが出てきます。

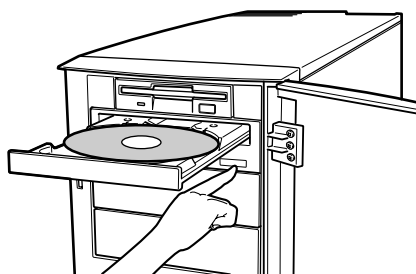


EJECTボタン

- 2 媒体のレーベル面を上にして、トレーの中央に置きます。



- 3 EJECT ボタンを押します。  
トレーがワークステーション本体に入り、媒体がセットされます。



### ポイント

媒体をセットすると、BUSY ランプが点灯します。BUSY ランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。

### 媒体の取り出し

媒体の取り出しは、BUSY ランプが消えるのを確認してから、EJECT ボタンを押して行ってください。

## 9 ハードディスクについて

---

本ワークステーションには、ハードディスクが内蔵されています。ここでは、ハードディスクの取り扱いについて説明します。

### ハードディスクとは

ハードディスクは、ソフトウェアや情報を保存する装置です。ハードディスクは磁気ディスクを1つの箱に収めた構造になっています。フロッピーディスクに比べ、多くの情報を保存でき、情報の読み書きが速いのが特長です。

### 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、ハードディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態の本ワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。



#### ポイント

- 誤った取り扱いをすると、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。



## 2 内蔵オプションの取り付け

この章は、本ワークステーションに内蔵オプションを取り付ける方法を説明しています。

### Contents

---

1 内蔵オプションを取り付ける前に .....	50
2 各カバーの取り外し / 取り付け .....	52
3 メモリの取り外し / 取り付け .....	54
4 拡張カードの取り付け / 取り外し .....	58
5 各種ドライブの取り付け .....	62

# 1 内蔵オプションを取り付ける前に

ここでは、内蔵オプションの概要および内蔵オプションを取り付ける前の準備として、サイドカバーの取り外し方法について説明します。

## 内蔵オプションとは

本ワークステーションは、さまざまなオプションを接続・内蔵して機能を拡張できます。

オプションの中には、機種によってはお使いになれないものがあります。

ご購入の前に、「CELSIUS シリーズ システム構成図」をご覧ください。そのオプションが使えるかどうかを確認してください。

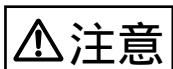


感電



オプション機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。

感電・火災または故障の原因となります。



けが



- 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジをはずさないでください。  
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障



- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、本ワークステーションおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

## 取り扱い上の注意

内蔵オプションを取り付けるときは、次の点に注意してください。

- 作業を行う前に、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、ワークステーション内部の部品やユニットが熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと十分に待ってから、作業を始めてください。
- 電源ユニット（ワークステーション内部の背面側にある箱の形状をした装置）は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱いの際は、必ず本ワークステーションに付属のリストストラップを着用してください。  
リストストラップは片方をシールをはがしてワークステーション本体背面に接着し、もう片方を手首に巻き付けて使用します。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
- 弊社純正品以外のオプションの取り付けや分解を行った場合は、保証の対象外となります。



### ポイント

本ワークステーションをご購入後、内蔵オプションを取り付ける場合は、必ずオペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

## 2 各カバーの取り外し／取り付け

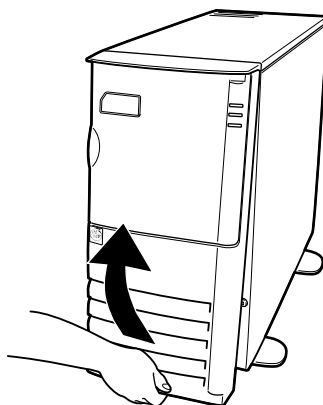
---

内蔵オプションを取り付けるときは、フロントカバー／サイドカバーを取り外して、内部が見える状態にします。

### フロントカバー／サイドカバーの取り外し

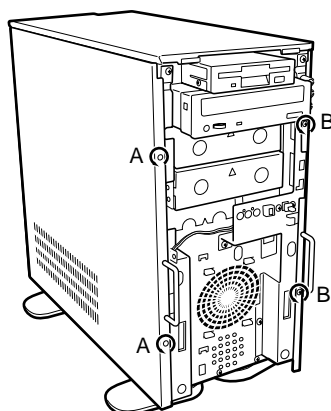
---

- 1 ワークステーションの電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
- 2 ワークステーションに接続されているすべてのケーブルをコネクタから取り外します。
- 3 ワークステーション本体を作業しやすい場所に移動します。
- 4 フロントカバーを手前に引き、取り外します。  
フロントカバー下側とワークステーション本体の間のレバーに手をかけ、ロックを外すようにして取り外します。



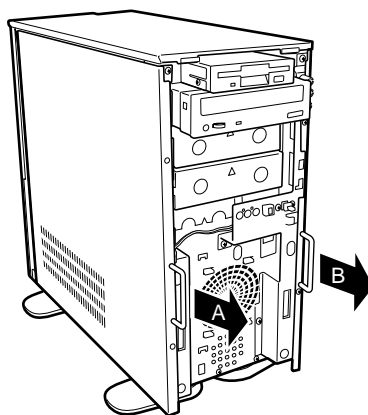
## 5 ワークステーション本体前面のネジを取り外します。

- ファイルベイヘッドドライブを取り付ける場合  
本体前面 4ヶ所 (A と B) のネジを取り外します。
- その他のオプションを取り付ける場合  
本体前面 2ヶ所 (A のみ) のネジを取り外します。



## 6 サイドカバーの取っ手をもち、手前に引いてワークステーション本体から取り外します。

- ファイルベイヘッドドライブを取り付ける場合  
サイドカバー 2ヶ所 (A と B) を取り外します。
- その他のオプションを取り付ける場合  
サイドカバー 1ヶ所 (A のみ) を取り外します。



## フロントカバー / サイドカバーの取り付け

取り付けは上記と逆の手順で行ってください。

### 3 メモリの取り外し／取り付け

メモリの取り付けや取り外し方法を説明します。メモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力が上がります。



#### ポイント

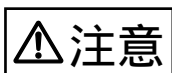
- ご購入後、メモリを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- メモリは弊社純正品を使用してください。純正品以外のメモリを取り付けると、起動しません。
- 搭載可能なメモリは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- メモリを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーション本体を横に倒すと作業しやすくなります。



感 電



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。
- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。  
感電・火災または故障の原因となります。
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。  
やけどの原因となります。



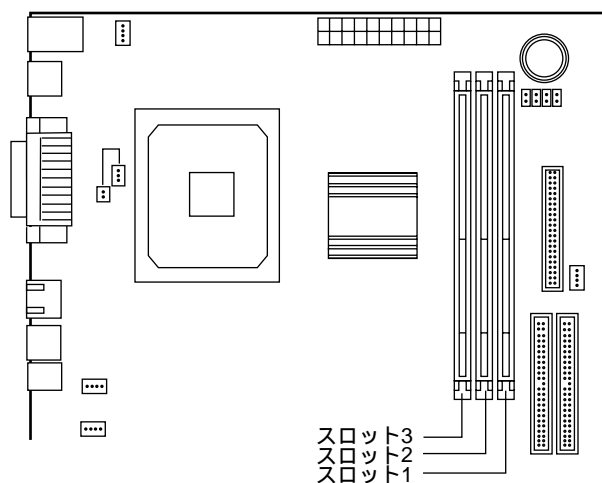
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。  
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。  
けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。

## メモリについて

メモリのスロットには、128MB/256MB/512MB の SDRAM メモリモジュールを取り付けられます。メモリは最大 1.5GB まで取り付けられます。

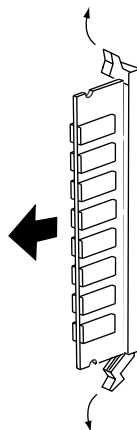
メモリはスロット 1 ～ 3 の順番に取り付けてください。

スロット 3 にメモリが入っているのにスロット 2 やスロット 1 にメモリが入っていないという状態がないようにしてください。



## メモリの取り外し

- 1 フロントカバー / サイドカバーを取り外します。
- 2 取り外すスロットの両側のレバーを外側に開きます。





**ポイント**

レバーを勢いよく開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

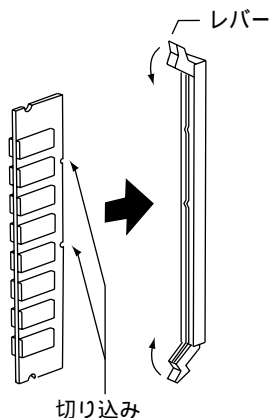
- 3 メモリをスロットから取り外します。

**ポイント**

取り外したメモリは大切に保管しておいてください。

## メモリの取り付け

- 1 取り付けるスロットの両側のレバーを外側に開きます。
- 2 メモリをスロットに差し込みます。  
メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。



- 3 上下のレバーでモジュールを固定します。
- 4 サイドカバー / フロントカバーを取り付けます。

## 4 拡張カードの取り付け／取り外し

拡張カードを取り付ける方法を説明します。拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。



### ポイント

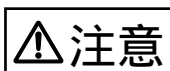
- ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- 拡張カードは弊社純正品を使用してください。他社製の拡張カードのなかには、本ワークステーションで動作しないものがあります。
- 搭載可能な拡張カードは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- 拡張カードを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーションを横に倒すと作業しやすくなります。



感 電



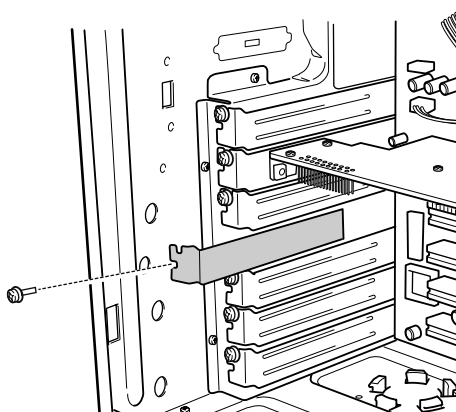
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。
- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。  
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。  
やけどの原因となります。



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。  
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。  
けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。

## 拡張カードの取り付け

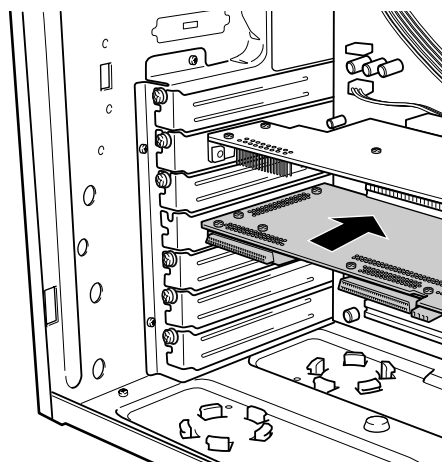
- 1 フロントカバー / サイドカバーを取り外します。
- 2 スロットからスロットカバーを取り外します。  
ネジ (1ヶ所) を外し、スロットカバーを取り外します。



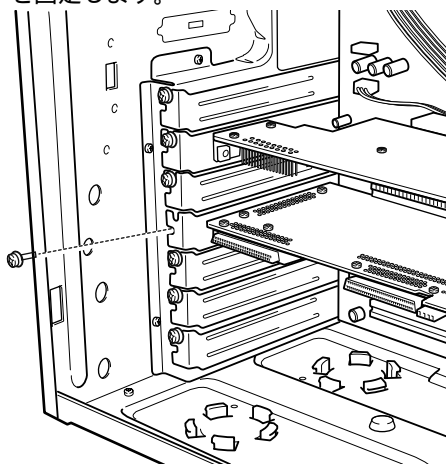
### ポイント

取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

- 3 拡張カードをスロットに差し込みます。  
拡張カードをスロットの奥まで差し込みます。



- 4 ネジで固定します。  
手順 2 で取り外したネジで拡張カードを固定します。



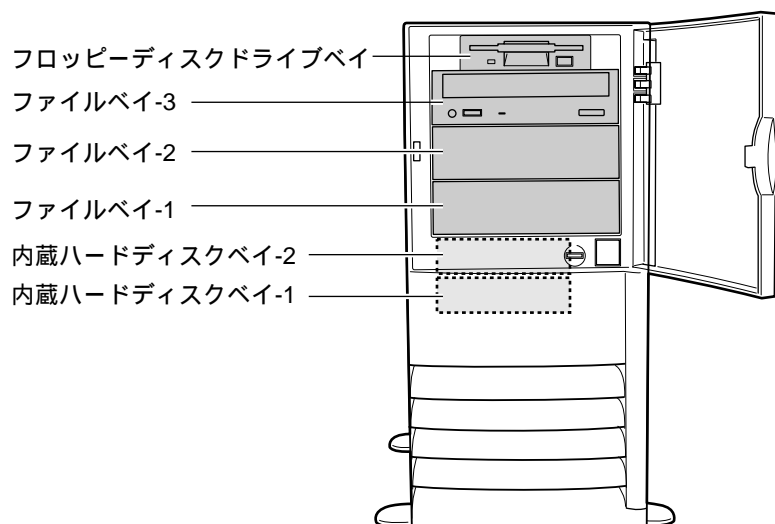
- 5 必要に応じて、ケーブルを拡張カードに接続します。
- 6 サイドカバー / フロントカバーを取り付けます。
- 7 本ワークステーションの電源を入れます。  
必要に応じて、拡張カードのデバイスドライバをインストールします。デバイスドライバをインストールして設定すると、拡張カードを使用できるようになります。

## 拡張カードの取り外し

取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

## 5 各種ドライブの取り付け

本ワークステーションには、ファイルベイを3個、内蔵ハードディスクベイを2個、フロッピーディスクドライブベイを1個、搭載しており、各種ドライブを取り付けることができます。



### ポイント

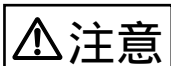
- 本ワークステーションをご購入後、各種ドライブを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- 搭載可能な各種ドライブは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。



感電



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。
- 各種ドライブを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。  
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。  
やけどの原因となります。



禁止



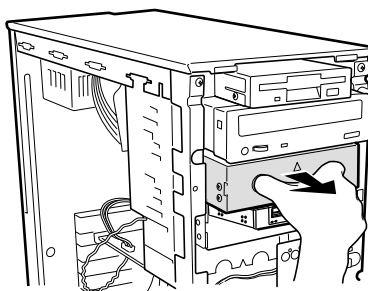
- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。  
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。  
けがをする恐れがあります。また、故障の原因となることがあります。

## IDE 規格の内蔵オプション（ハードディスクドライブを除く）について

IDE 規格の内蔵オプションはセカンダリ IDE 側に接続されているケーブルに接続します。

## ファイルベイへのドライブの取り付け

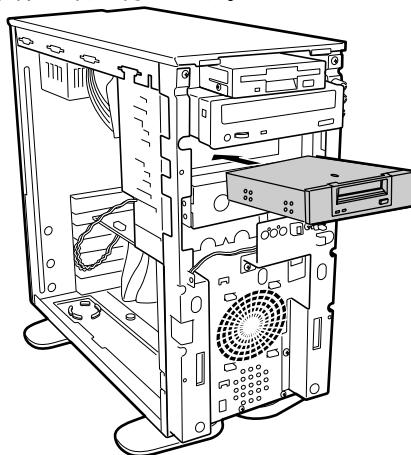
- 1 フロントカバー / サイドカバーを取り外します。
- 2 フロントカバーの内側から、かくし板を取り外します。
- 3 金具を取り外します。



### ポイント

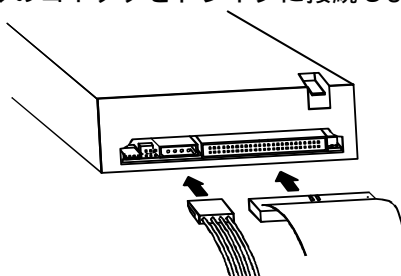
取り外したかくし板、および金具は大切に保管してください。

- 4 ドライブの設定を行います。  
設定方法は、各ドライブに添付されているマニュアル、または付録の「3 ドライブの設定」( 117 ページ ) を参照してください。
- 5 ドライブをワークステーション本体に取り付けます。

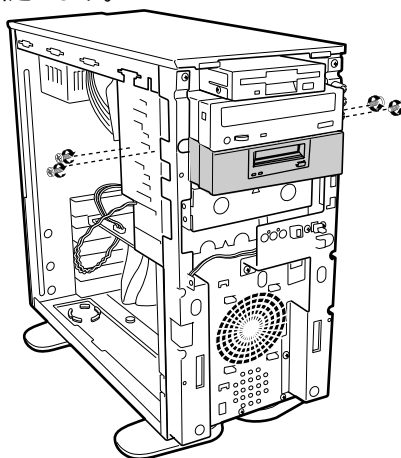




- 6 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。



- 7 ドライブをネジで固定します。  
ドライブに付属のネジ（4ヶ所）で固定します。



- 8 サイドカバー / フロントカバーを取り付けます。

## ファイルベイからのドライブの取り外し

取り外しは取り付けと逆の手順で行ってください。

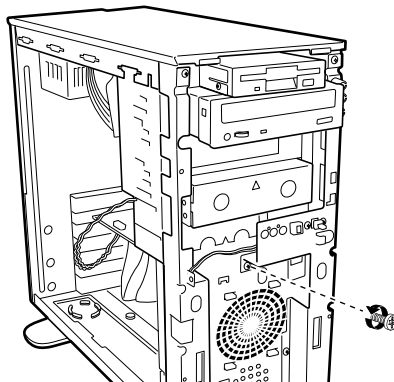
## ハードディスクドライブの内蔵ハードディスクベイへの取り付けと取り外し

### IDE ハードディスクについて

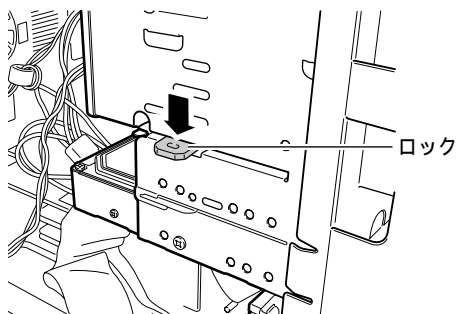
- ハードディスクは内蔵ハードディスクベイへのみ取り付けすることができます。
- OS を起動させるハードディスクは、必ずプライマリ IDE コネクタにマスターとして接続してください。スレーブとして接続したり、セカンダリ IDE コネクタに接続したりすると、OS が起動できない場合があります。
- ワークステーション本体に接続されている IDE ケーブルは、プライマリ IDE に接続するケーブルとセカンダリ IDE に接続するケーブルとで異なります。プライマリ IDE に接続するケーブルは、UltraDMA/66 に対応しているケーブルですので、IDE ハードディスクはプライマリ IDE 側に接続してください。
- ハードディスク 1 台接続時は、マスター設定したものをシステムボードから遠い方のコネクタに接続します。  
ハードディスク 2 台接続時は、マスター設定したものをシステムボードに近い方のコネクタに、スレーブ設定したものをシステムボードから遠い方のコネクタにそれぞれ接続します。  
ケーブルに刻印されている文字は無視してください。

### 内蔵ハードディスクベイの取り外し

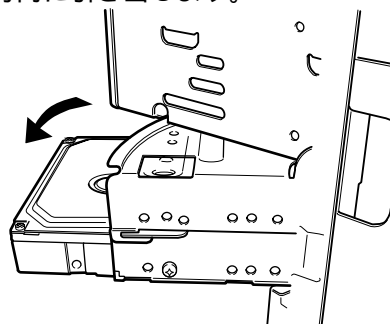
- 1 フロントカバー / サイドカバーを取り外します。
- 2 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ハードディスクドライブから取り外します。
- 3 ワークステーション前面のネジを取り外します。



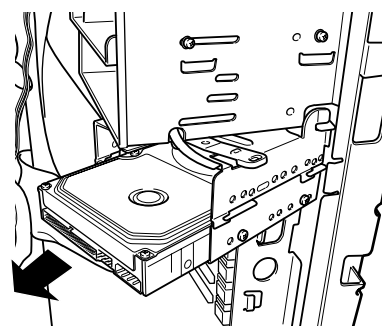
- 4 ロックを矢印方向に押します。



- 5 内蔵ハードディスクベイを矢印方向に引き出します。

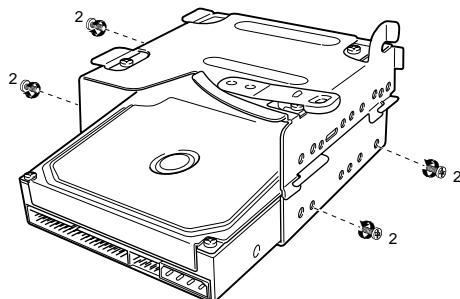


- 6 内蔵ハードディスクベイを矢印方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。

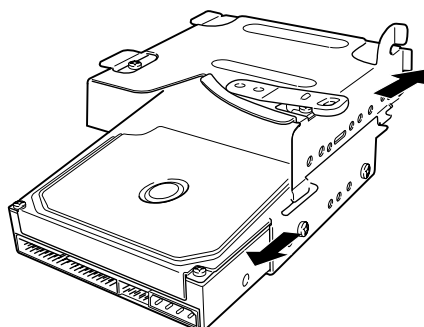


## 内蔵ハードディスクベイへのハードディスクドライブの取り付け

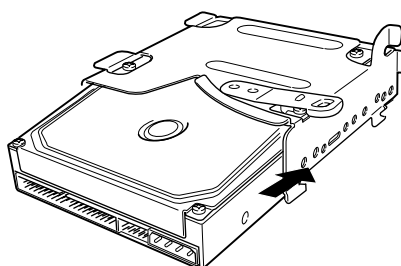
- 1 ハードディスクドライブの設定（マスター/スレーブの設定など）を行います。
- 2 ドライブを固定している 4ヶ所のネジをゆるめます。



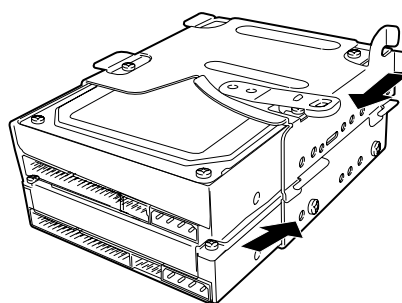
- 3 ドライブベイの上下を取り外します。



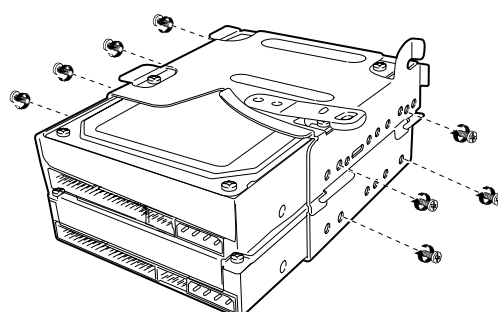
- 4 ハードディスクドライブを手順 3 で取り外したベイに取り付けます。



5 ドライブベイの上下を取り付けます。



6 ドライブを 8ヶ所のネジで固定します。

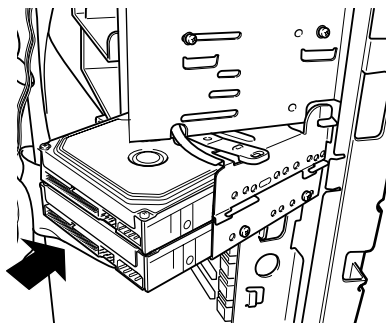


2

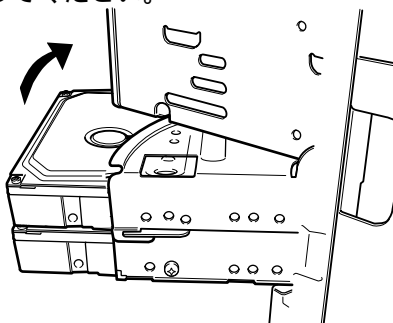
内蔵オプションの取り付け

## 内蔵ハードディスクベイの取り付け

- 1 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ハードディスクドライブに接続します。
- 2 内蔵ハードディスクベイを矢印方向に押して、ワークステーション本体に取り付けます。



- 3 内蔵ハードディスクベイをカチッとはまるまで、矢印方向に押します。ガイドレールが溝に入るようにしてください。

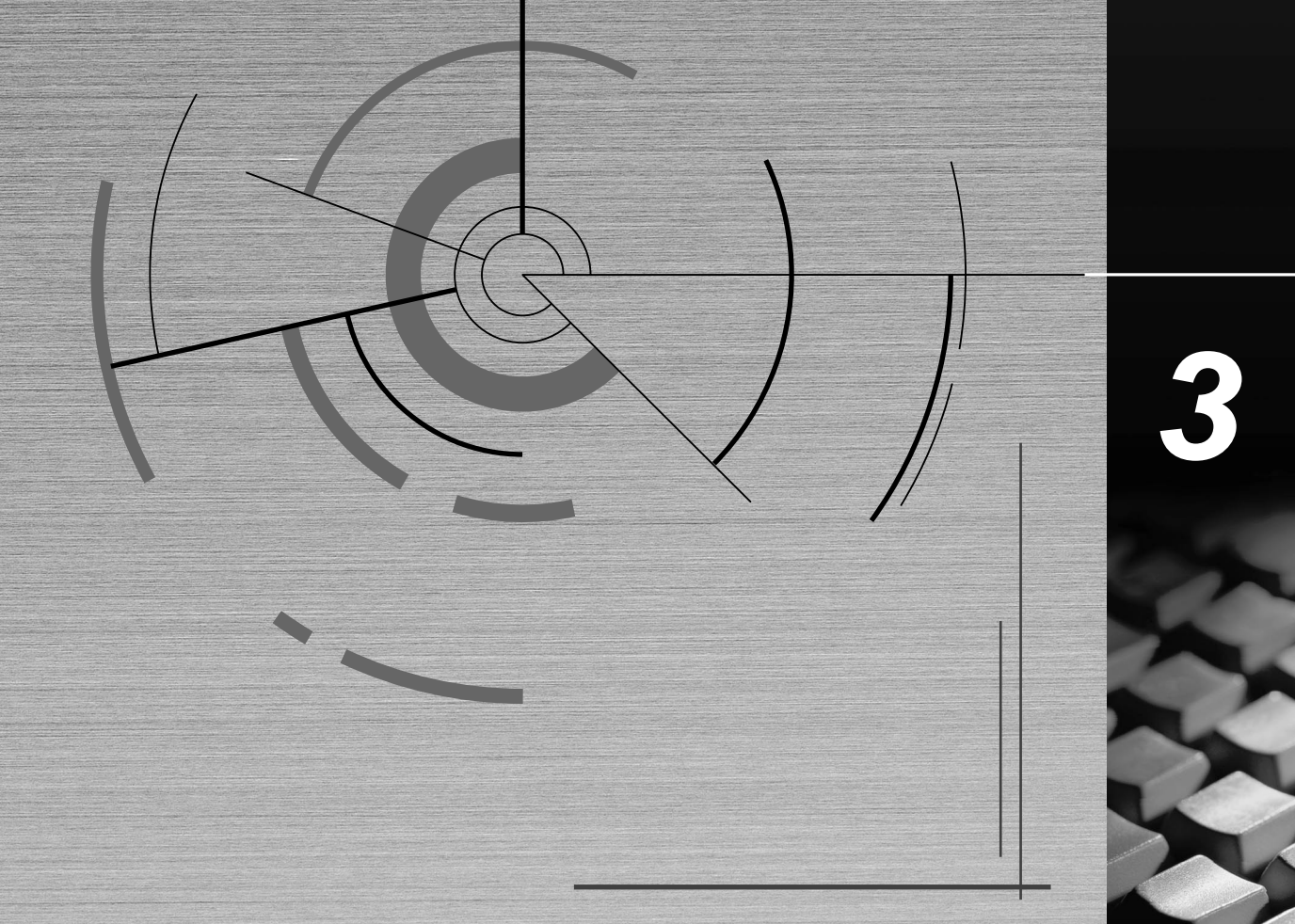


- 4 ワークステーション前面のネジを取り付けます。
- 5 サイドカバー/フロントカバーを取り付けます。



### ポイント

必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。



# 3

## 3 BIOS 設定

この章では、ハードウェアの環境を設定するために行う、BIOS 設定について説明しています。

### *Contents*

---

1 BIOS セットアップとは .....	72
2 BIOS セットアップの操作方法 .....	73
3 BIOS セットアップのメニューと項目の詳細 .....	76

# 1 BIOS セットアップとは

---

BIOS セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- ハードディスクドライブなどの記憶装置を取り外したとき、または取り付けたとき
- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- メッセージが表示されたとき



## ポイント

- BIOS セットアップで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、担当営業員、または担当保守員にご相談ください。
- ハードディスクなどの構成を変更した直後に BIOS セットアップを行うと、デバイス情報が反映されません。そのため、ハードディスクなどの構成を変更した場合は、一度オペレーティングシステムを起動および終了して再度 BIOS セットアップを行う必要があります。



## 2 BIOS セットアップの操作方法

BIOS セットアップの操作方法について説明します。

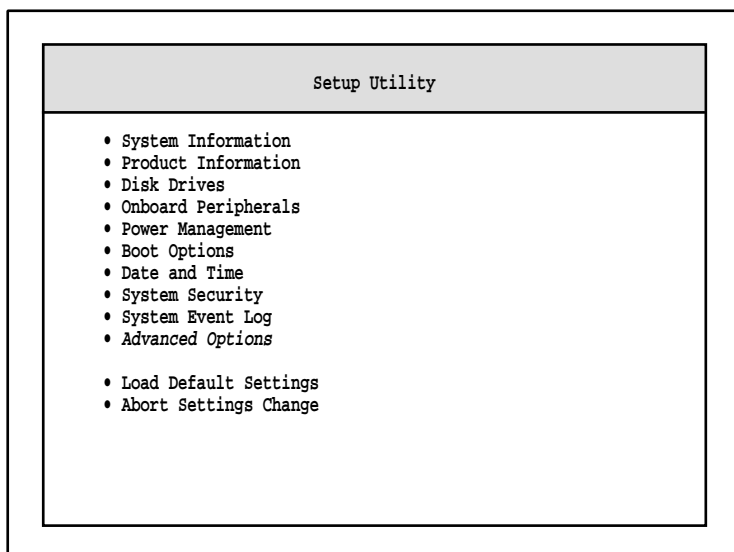
### BIOS セットアップの操作方法

#### BIOS セットアップを始める

BIOS セットアップの始めかたは次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 画面左下に「Ctrl\_Alt\_Esc : Enter Setup , F12 : Boot Menu」と表示されたら、[Ctrl] + [Alt] + [Esc] キーを押します。

BIOS セットアップのメインメニュー画面が表示されます。



#### ポイント

- メインメニュー画面で [F8] キーを押すと、Advanced Level で内容の表示、変更ができるようになります。本マニュアルの画面例において斜体で表示されている項目は、Advanced Level の場合に表示されます。
- Setup Utility 内での電源ボタン切断は行わないでください。どうしても電源切断したい場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し、強制的に電源断してください。

## 設定値を変更する

BIOS セットアップで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー / マウス	役割
[↑][↓] キー	設定する項目にカーソルを移動します。
[←][→] キー	希望する設定値を表示します。
[Page Down] キー	設定画面を 1 ページ目から 2 ページ目に移します。
[Page Up] キー	設定画面を 2 ページ目から 1 ページ目に戻します。
[F1] キー	カーソルを合わせた項目のヘルプを表示します。もう一度押すと、ヘルプを終了します。
[Esc] キー	前画面に戻ります。
[Enter] キー	設定項目を選択します。・がついている項目は、サブメニューがあることを示します。この項目のサブメニューを表示します。サブメニューが表示された状態で [Esc] キーを押すと、メニュー画面に戻ります。



### ポイント

BIOS セットアップの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしてください。


## BIOS セットアップを終了する

BIOS セットアップの終わりがたは次のとおりです。

- 1 メインメニューから [Esc] キーを押します。  
「Do you really want to exit SETUP?」または「Do you want to save CMOS settings?」というメッセージが表示されます。
- 2 [ ] キーで [Yes] か [No] にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。  
設定内容を保存するには、[Yes] を選択します。保存しない場合は、[No] を選択します。本ワークステーションがリセットされ、OS が読み込まれます。

## Boot Menu の操作方法

### Boot Menu を使用する

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 [F12] キーを押します。  
Boot Menu 画面が表示されます。
- 3 [  ] キーを使用してブートデバイスを選択します。
- 4 [Enter] キーを押します。  
選択したデバイスからシステムが起動します。選択したデバイスが接続されていない、またはブートセクタが見つからない場合はスキップします。



#### ポイント

Boot Menu 画面から抜ける場合は [Esc] キーを押してください。  
Setup Utility に移動する場合は、[Ctrl]+[Alt]+[Del] キーを押してください。

# 3 BIOS セットアップのメニューと項目の詳細

---

BIOS セットアップは、12 のメニューから構成されています。各設定項目は、これらのメニューの下に分類されています。

各メニューおよび項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

## System Information

本ワークステーションの現在のハードウェア設定情報を表示します。

## Product Information

本ワークステーションの製品情報を表示します。

## Disk Drives

フロッピーディスクとハードディスクに関する設定を行います。

## Onboard Peripherals

システムボード上の入出力装置に関する設定を行います。

## Power Management

省電力モードに関する設定を行います。

## Boot Options

電源を入れたときの設定を行います。

## Date and Time

日時を設定します。

## System Security

特定の人だけが、本ワークステーションを操作できるように設定します。

## System Event Log

ロギング処理に関する設定を行います。

## Advanced Options

システムボード上の各機能に関する設定を行います。  
メインメニュー画面で [F8] キーを押して表示させます。

Load Default Settings

BIOS セットアップの設定値を初期値に戻します。

Abort Settings Change

BIOS セットアップ中に設定値の変更をキャンセルします。

## System Information

System Information メニューは、本ワークステーションの現在のハードウェア設定情報を表示します。

設定を変更することはできません。

System Information	
Processor -----	Pentium III
Processor Speed -----	xxx MHz
CPU/SDRAM BUS Frequency -----	133/133 Mhz
Level 1 Cache -----	32 KB, Enabled
Level 2 Cache -----	256 KB, Enabled
Floppy Drive A -----	1.44MB 3.5-inch
Floppy Drive B -----	None
IDE Primary Channel Master -----	Hard Disk, xxx M.B.
IDE Primary Channel Slave -----	None
IDE Secondary Channel Master -----	IDE CD-ROM
IDE Secondary Channel Slave -----	None
Total Memory -----	xxx MB
1st Bank -----	Registered SDRAM, xxx MB
2nd Bank -----	None
3rd Bank -----	None
Serial Port 1 -----	3F8h, IRQ 4
Serial Port 2 -----	2F8h, IRQ 3

System Information	
Parallel Port -----	378h, IRQ 7
PS/2 Mouse -----	Installed

#### Processor

システムに搭載している CPU 名称を表示します。

#### Processor Speed

CPU の動作周波数を表示します。

#### CPU/SDRAM BUS Frequency

CPU バス / メモリバスの動作周波数を表示します。

#### Level 1 Cache

CPU の 1 次キャッシュ (L1) 搭載サイズを表示します。

#### Level 2 Cache

CPU の 2 次キャッシュ (L2) 搭載サイズを表示します。

#### Floppy Drive A / Floppy Drive B

フロッピーディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を表示します。

#### IDE Primary Channel Master

プライマリ IDE のマスターに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

#### IDE Primary Channel Slave

プライマリ IDE のスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

#### IDE Secondary Channel Master

セカンダリ IDE のマスターに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

#### IDE Secondary Channel Slave

セカンダリ IDE のスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

#### Total Memory

本ワークステーションに取り付けられているメモリサイズを表示します。

#### 1st Bank / 2nd Bank / 3rd Bank

本ワークステーションに取り付けられているメモリの種類を表示します。

#### Serial Port 1

シリアルポート 1 の設定情報を表示します。

Serial Port 2

シリアルポート 2 の設定情報を表示します。

Parallel Port

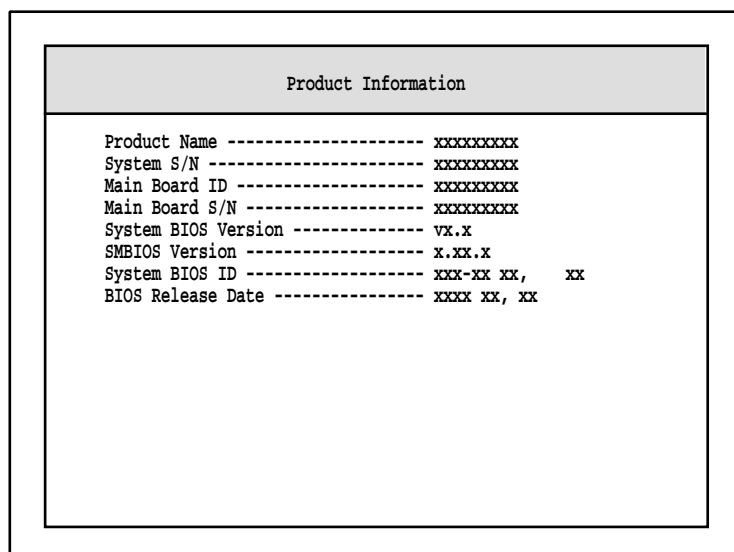
パラレルポートの設定情報を表示します。

PS/2 Mouse

マウスの接続状態を表示します。

## Product Information

Product Information メニューは、本ワークステーションの製品情報を表示します。  
設定内容を変更することはできません。



Product Name

製品名称を表示します。

System S/N

システムのシリアルナンバーを表示します。

Main Board ID

システムボードの ID を表示します。

Main Board S/N

システムボードのシリアルナンバーを表示します。

System BIOS Version

BIOS のバージョンを表示します。

SMBIOS Version

SMBIOS のバージョンを表示します。

System BIOS ID

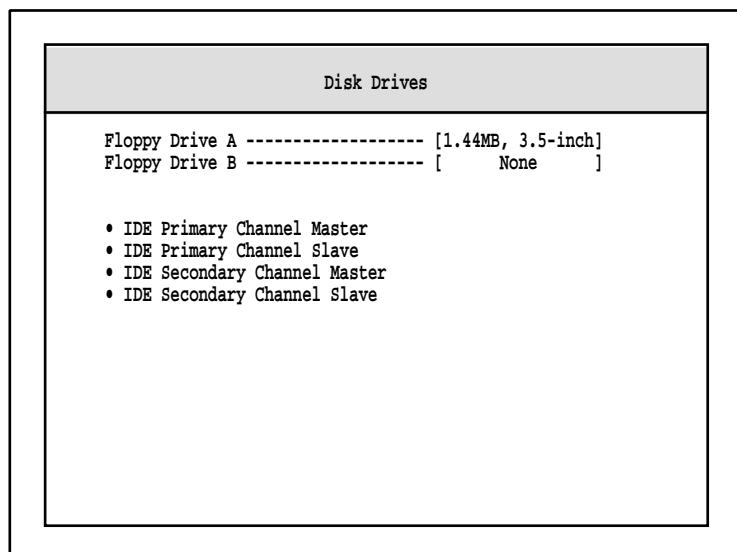
BIOS の ID を表示します。

BIOS Release Date

BIOS の作成日を表示します。

## Disk Drives

Disk Drives メニューは、フロッピーディスクとハードディスクに関する設定を行います。



Floppy Drive A

フロッピーディスクドライブのタイプ（記録密度とドライブサイズ）を設定します。設定値は、以下のとおりです。

- None
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch（初期値）
- 2.88MB 3.5-inch



## Floppy Drive B

- None ( 初期値 )
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch
- 2.88MB 3.5-inch



### ポイント

本ワークステーションでは、2 台目のフロッピーディスクドライブの増設をサポートしていません。  
初期値から変更しないでください。

IDE Primary Channel Master

IDE Primary Channel Slave

IDE Secondary Channel Master

IDE Secondary Channel Slave

IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタとセカンダリ IDE コネクタに取り付けたマスターとスレーブのハードディスクなどのタイプ ( 容量やシリンダ数など ) を設定します。カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。



### ポイント

不適切な転送モードに設定した場合、システムが正しく起動しない場合があります。初期値から変更しないでください。

IDE Primary/Secondary Channel Master/Slave	
Device Detection Mode -----	[ Auto ]
Device Type -----	Hard Disk
Cylinder -----	[ XXXXX ]
Head -----	[ XXXX ]
Sector -----	[ XXXX ]
Size -----	[ XXXX ] M.B.
Hard Disk LBA Mode -----	[ Auto ]
Hard Disk Block Mode -----	[ Auto ]
Hard Disk 32 Bit Access -----	[ Enabled ]
Advanced PIO Mode -----	[ Auto ]
DMA Transfer Mode -----	[ Auto ]

#### Device Detection Mode

IDE ドライブのタイプを設定します。

- Auto ( 初期値 )  
本ワークステーションが自動的に IDE ドライブのタイプを設定します。
- None  
IDE ドライブを認識していない状態にします。
- User  
User を選択すると、Cylinder、Head、Sector、Size の各項目に数値を入力できる状態になります。

#### Device Type

IDE ドライブのタイプを表示します。

#### Hard Disk LBA Mode

LBA ( Linerar Block Addressing ) 転送を行うかどうかを設定します。

- Auto ( 初期値 )  
LBA 転送を行います。
- Disabled  
LBA 転送を行いません。



#### ポイント

504MB 以上のハードディスクを設定する場合は、あらかじめ設定が Auto になっていることを確認してください。フォーマット後に設定を変えるとハードディスクが正常に動作しません。

#### Hard Disk Block Mode

ブロック転送（データを複数セクタ分まとめて転送すること）を行うかどうかを設定します。

Advanced Level の場合に表示される項目です。

- Auto（初期値）  
ブロック転送を自動的に行います。
- Disabled  
ブロック転送を行いません。

#### Hard Disk 32 Bit Access

ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスできるように設定します。

Advanced Level の場合に表示される項目です。

- Enabled（初期値）  
ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスするときに選択します。
- Disabled  
ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスしないときに選択します。

#### Advanced PIO Mode

PIO (programmed I/O) モードのうち、最も高速な PIO モードに自動設定します。

Advanced Level の場合に表示される項目です。

- Auto（初期値）  
高速な PIO モードに自動設定します。
- Mode0 / Mode1 / Mode2 / Mode3 / Mode4  
PIO モードを設定します（Mode0 ~ Mode4）。

#### DMA Transfer Mode

Ultra DMA の転送モードを設定します。

Advanced Level の場合に表示される項目です。

- Auto（初期値）  
本ワークステーションが自動的に設定します。
- Multiword Mode 0 / 1 / 2  
DMA 転送モードを選択します。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。
- Ultra Mode 0 / 1 / 2 / 3 / 4  
DMA 転送モードを選択します。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。
- Disabled  
DMA 転送を行いません。

## Onboard Peripherals

Onboard Peripherals メニューは、システムボード上の入出力装置に関する設定を行います。

Onboard Peripherals	
Serial Port 1 -----	[Enabled ]
Base Address -----	[3F8h]
IRQ -----	[4]
Serial Port 2 -----	[Enabled ]
Base Address -----	[2F8h]
IRQ -----	[3]
Parallel Port -----	[Enabled ]
Base Address -----	[378h]
IRQ -----	[7]
Operation Mode -----	[ Standard ]
ECP DMA Channel -----	[-]
Floppy Disk Controller -----	[Enabled ]
IDE Controller -----	[ Both ]
PS/2 Mouse Controller -----	[Enabled ]
USB Host Controller -----	[Disabled]
USB Legacy Mode -----	[------]

Onboard Device Settings	
Onboard Audio Chip -----	[Enabled ]
Onboard Ethernet Chip -----	[Enabled ]

### Serial Port 1

シリアルポート 1 のアドレス番号と IRQ を設定します。

- Enabled ( 初期値 )  
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
- Disabled  
シリアルポート 1 を無効化します。

#### Base Address

アドレス番号を設定します。

- 2E8h
- 2F8h
- 3E8h
- 3F8h (初期値)

#### IRQ

IRQ を設定します。

- 4 (初期値)
- 11

#### Serial Port 2

シリアルポート 2 のアドレス番号と IRQ を設定します。

- Enabled (初期値)  
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
- Disabled  
シリアルポート 1 を無効化します。

#### Base Address

アドレス番号を設定します。

- 2E8h
- 2F8h (初期値)
- 3E8h
- 3F8h

#### IRQ

IRQ を設定します。

- 3 (初期値)
- 10

#### Parallel Port

パラレルコネクタのアドレス番号と IRQ を設定します。

- Enabled (初期値)  
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
- Disabled  
パラレルポートを無効化します。

#### Base Address

パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。

- 3BCh
- 378h (初期値)
- 278h

#### IRQ

パラレルポートの IRQ を設定します。

- 5
- 7 (初期値)

#### Operation Mode

パラレルコネクタに接続する装置の種類を設定します。

- Standard (初期値)  
出力専用モードを使用する周辺装置を接続します。
- Bi-directional  
双方向モードを使用する装置を接続します。
- EPP  
EPP 規格の装置を接続します。
- ECP  
ECP 規格の装置を接続します。

#### ECP DMA Channel

この項目は、Operation Mode を ECP に設定した場合に設定可能になります。  
パラレルコネクタを ECP モードで動作させる場合に、パラレルコネクタが使用する DMA チャンネルを設定します。

- 1  
DMA チャンネル 1 を使います。
- 3  
DMA チャンネル 3 を使います。
- -- (初期値)  
Operation Mode が Standard のため、選択できない状態になっています。

#### Floppy Disk Controller

フロッピーディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)  
フロッピーディスクコントローラを使用します。
- Disabled  
フロッピーディスクコントローラを使用しません。

#### IDE Controller

システムボード上の IDE を有効にするかどうかを設定します。

- Primary  
プライマリ IDE を有効にします。
- Both (初期値)  
プライマリ、セカンダリ IDE を有効にします。
- Disabled  
IDE を無効化します。

#### PS/2 Mouse Controller

マウスコネクタに接続したマウスを使用できるようにするかどうかを設定します。IRQ 12 を使用しています。

- Enabled (初期値)  
マウスを使用可能にします。
- Disabled  
マウスを使用不可にします。

#### USB Host Controller

USB コントローラを有効化するかどうかを設定します。

- Enabled  
USB コントローラを有効にします。
- Disabled (初期値)  
USB コントローラを無効化します。

#### USB Legacy Mode

この項目は、USB Host Controller を Enabled に設定した場合に設定可能になります。USB キーボードを MS-DOS や Windows NT 環境で使用するかどうかを設定します。

- Enabled  
USB キーボードを使用可能にします。
- Disabled (初期値)  
USB キーボードを使用不可にします。

#### Onboard Audio Chip

システムボード上のオーディオコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)  
オーディオコントローラを有効にします。
- Disabled  
オーディオコントローラを無効化します。

## Onboard Ethernet Chip

システムボード上の LAN コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)  
LAN コントローラを有効にします。
- Disabled  
LAN コントローラを無効化します。

## Power Management

Power Management メニューは、省電力モードに関する設定を行います。

Power Management	
Power Management Mode -----	[Enabled]
IDE Hard Disk Standby Timer ----	[Off]
System Sleep Timer -----	[Off]
Sleep Mode -----	[-----
Power Switch < 4 sec. -----	[Power Off]
System wake-up event	
Modem Ring Indicator -----	[Enabled]
PCI Power Management -----	[Enabled]
Restart on AC/Power Failure -----	[Disabled]

### Power Management Mode

省電力モードを有効化するかどうかを設定します。

- Disabled  
省電力モードに移行しません。省電力モードに関する設定項目( IDE Hard Disk Standby Timer、System Sleep Timer、Sleep Mode、Power Switch 4 sec. )は、灰色の文字で表示され、設定できなくなります。
- Enabled (初期値)  
省電力モードに移行します。



### IDE Hard Disk Standby Timer

内蔵ハードディスクを、スタンバイモード（一部の回路を停止させた状態）に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、スタンバイモードから通常の状態に数秒で戻ります。

- OFF（初期値）  
スタンバイモードになりません。
- 1 ~ 15  
1 分から 15 分の間で任意の時間を設定します。その時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクがスタンバイモードになります。

### System Sleep Timer

システムを停止するまでの時間を設定します。

- OFF（初期値）  
スリープタイマを設定しません。
- 2 ~ 120  
2 分から 120 分の間で任意の時間を設定します。

### Sleep Mode

システムをスリープ状態に移行するときのモードを設定します。

System Sleep Timer が OFF の場合は、選択できません。

- --（初期値）  
System Sleep Timer が「OFF」に設定されているため、選択できない状態になっています。
- Standby  
スタンバイモード（VGA オフ）に移行します。
- Suspend  
サスペンドモード（VGA オフ / IDE ハードディスクモータオフ / CPU 低電力モード）に移行します。

### Power Switch < 4 sec.

電源スイッチを押したときに、サスペンド状態に移行するかどうかを設定します。

- Suspend  
電源スイッチを押すとサスペンド状態に移行します。4 秒以上押し続けた場合は、電源が切れます。
- Power Off（初期値）  
電源スイッチを押す時間の長さに関係なく、電源スイッチを押すと電源が切れます。

## System wake-up event

本ワークステーションの ON/OFF に関する設定を行います。

### Modem Ring Indicator

モデムを使った電話回線からの着信で、本ワークステーションの電源を入れるかどうかを設定します。

- Enabled  
電源が入ります。
- Disabled ( 初期値 )  
電源が入りません。

### PCI Power Management

PCI スロットの PME ( Power Management Enabled ) により本ワークステーションの電源を入れるかどうかを設定します。

また、本設定でシステムボード上の LAN コントローラ経由で本ワークステーションの電源を入れるかどうかを設定します。

- Enabled ( 初期値 )  
電源が入ります。
- Disabled  
電源が入りません。

### Restart on AC/Power Failure

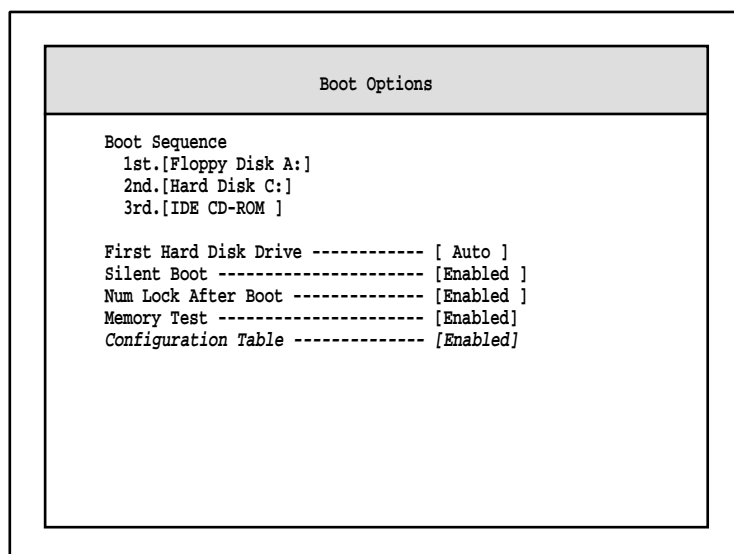
電源供給復電時の設定をします。

シャットダウン後に電源が切断される OS で、UPS のスケジュール運転を行う場合は、「Enabled」に設定してください。

- Enabled  
電源復電時、常にシステムを起動します。
- Disabled ( 初期値 )  
電源復電時、常にシステムを起動しません。

## Boot Options

Boot Options メニューは、電源を入れたときの設定を行います。



3

BIOS 設定

### Boot Sequence

Boot Sequence メニューは、起動ドライブの優先順位を設定します。

優先順位は、各項目の左側についている番号にしたがいます（番号が小さい方が優先順位が高くなります）。

フロッピーディスクドライブ ハードディスクドライブ CD-ROM ドライブの順に起動ドライブとして認識させたい場合は、次のように設定します。

1st [Floppy Disk] 2nd [Hard Disk] 3rd [IDE CD-ROM]

ドライブが接続されていない、または認識されていない場合はスキップします。



### ポイント

CD-ROMからの起動にはブート可能なOSの入ったCD-ROMが必要となります。

一度電源を入れたあと、CD-ROM ドライブに CD-ROM をセットしてから再起動してください。

### Fast Boot

ブート時に POST を実行するかどうかを設定します。

- Auto (初期値)

ブート時に POST (Power On Self Test) の一部を省略し、高速にシステムを起動します。

- Disabled

ブート時に全 POST を実行します。

### Silent Boot

POST 時にサイレントブート（FUJITSU ロゴの表示）を行うかどうかを設定します。サイレントブートを行うと、POST の途中経過は画面には表示されません。

- Enabled（初期値）  
サイレントブートを行います。
- Disabled  
サイレントブートを行いません。

### Num Lock After Boot

起動したあとに、キーボードを Num Lock 状態にするかどうかを設定します。

- Enabled（初期値）  
キーボードを Num Lock 状態にします。
- Disabled  
キーボードを Num Lock 状態にしません。

### Memory Test

この項目は、Fast Boot を Disabled に設定した場合に設定可能になります。POST でメモリテストを行うかどうかを設定します。

- Enabled（初期値）  
メモリテストを行います。
- Disabled  
メモリテストを行いません。

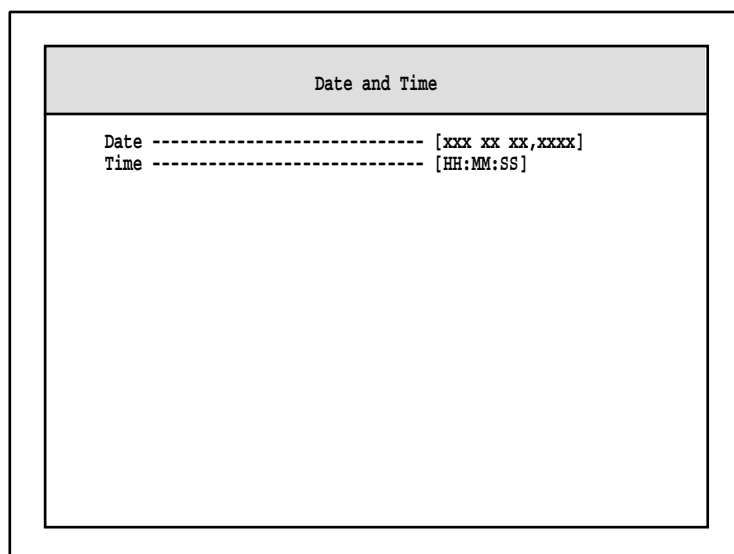
### Configuration Table

システム構成情報画面を表示するかどうかを設定します。画面は OS 起動直前に表示されます。

- Enabled（初期値）  
システム構成情報を表示します。
- Disabled  
システム構成情報を表示しません。

## Date and Time

Date and Time メニューは、日時を設定します。



Date and Time

Date ----- [xxx xx xx,xxxx]  
Time ----- [HH:MM:SS]

### Date

曜日 / 月 / 日 / 西暦を設定します。

### Time

時 : 分 : 秒を設定します。時間は 24 時間形式で設定します。

## System Security

System Security メニューは、特定の人だけが本ワークステーションを操作できるように設定します。

System Security	
Supervisor Password -----	[None ]
User Password -----	[xxxxxxx]
Password on Boot -----	[xxxxxxx ]
Disk Drive Control	
Floppy Drive -----	[ Normal ]
Hard Disk Drive -----	[Normal]
Processor Serial Number -----	[Disabled]

### Supervisor Password

特定の人だけが BIOS セットアップをできるようにパスワードを設定します。パスワードを設定すると、BIOS セットアップを始めるときにパスワードの入力を求められます (初期値 : None )。

### User Password

特定の人だけが本ワークステーションを使用できるようにパスワードを設定します (初期値 : None )。

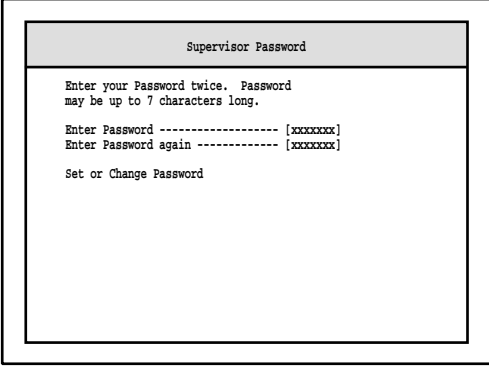
### Password on Boot

OS 起動時に User Password で設定したパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。

- Enabled  
パスワードの入力を求めます。
- Disabled  
パスワードの入力を求めません。

パスワードの設定方法は、次のとおりです。

- 1 [ ☐ ] キーで Supervisor Password、または User Password にカーソルを合わせ、[ ☐ ] キーを押します。  
パスワード入力用の画面が表示されます。



The image shows a BIOS screen titled "Supervisor Password". The text on the screen reads: "Enter your Password twice. Password may be up to 7 characters long." followed by "Enter Password ----- [xxxxxxx]" and "Enter Password again ----- [xxxxxxx]". At the bottom, it says "Set or Change Password".

- 2 7 桁までのパスワードを入力します。[Enter Password]  
入力できる文字種はアルファベットと数字です。  
入力した文字は表示されず、ブロックのみが表示されます。  
パスワードの設定を中止するときは、[Esc] キーを押します。
- 3 パスワードを入力したら [Enter] キーを押します。
- 4 手順 2 で入力したパスワードを再び入力して [Enter] キーを押します。  
[Enter Password again]  
再入力したパスワードが手順 2 で入力したものと一致しない場合は、再び手順 2 と同じ画面が表示されます。再びパスワードを入力してください。
- 5 もう一度 [Enter] キーを押します。[Set or Change Password]
- 6 セットアップを終了し、電源を切ります。

#### Disk Drive Control

ディスクドライブに関する設定を行います。  
本設定は DOS モードの時のみ有効です。

#### Floppy Drive

フロッピーディスクへのアクセスを設定します。

- Normal ( 初期値 )  
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- Write Protect All Sectors  
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Write Protect Boot Sector  
ブートセクタへの書き込みを禁止します。
- Disabled  
書き込みも読み込みも禁止します。

#### Hard Disk Drive

IDE 規格のハードディスクへのアクセスを設定します。

- Normal (初期値)  
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- Write Protect All Sectors  
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Write Protect Boot Sector  
ブートセクタへの書き込みを禁止します。

#### Processor Serial Number

Intel®Pentium® III が持つプロセッサ・シリアル・ナンバ機能を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled  
プロセッサ・シリアル・ナンバ機能を有効にします。
- Disabled (初期値)  
プロセッサ・シリアル・ナンバ機能を無効化します。

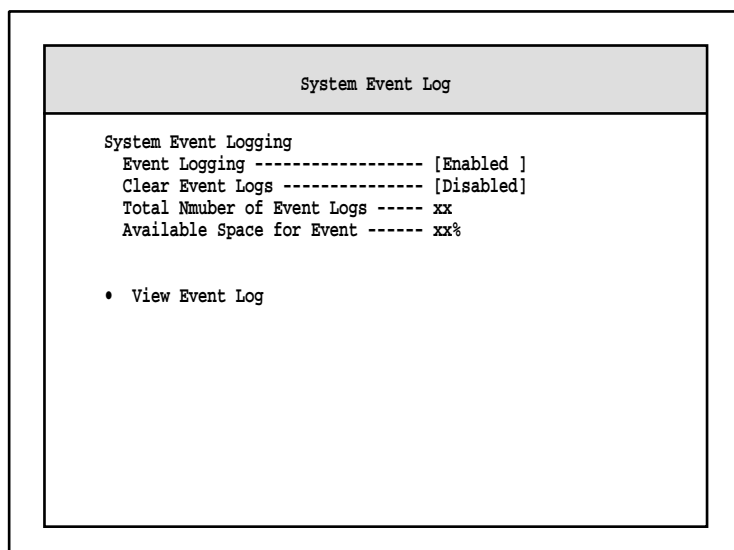


#### ポイント

Processor Serial Number を「Enabled」に設定すると、Intel プロセッサシリアルナンバコントロールユーティリティなどで、プロセッサシリアルナンバ機能が使用できます。



## System Event Log



3

BIOS 設定

### System Event Logging

イベントログに関しての設定を行います。

#### Event Logging

ロギングの処理を有効にするかどうかを指定します。

- Enabled (初期値)  
ロギング処理を有効にします。
- Disabled  
ロギング処理を無効化します。

#### Clear Event Logs

イベントログの消去を行うかどうかを設定します。

- Enabled  
イベントログを消去します。
- Disabled (初期値)  
イベントログを消去しません。



#### ポイント

- イベントログは、定期的に確認および消去してください。
- Clear Event Logs を「Enabled」に設定した場合、イベントログは再起動後に消去され、自動的に「Disabled」に戻ります。

Total Number of Event Logs

格納済みのイベントログ数を表示します。

Available Space for Event

残りのイベントログ格納領域の割合を%で表示します。

View Event Logs

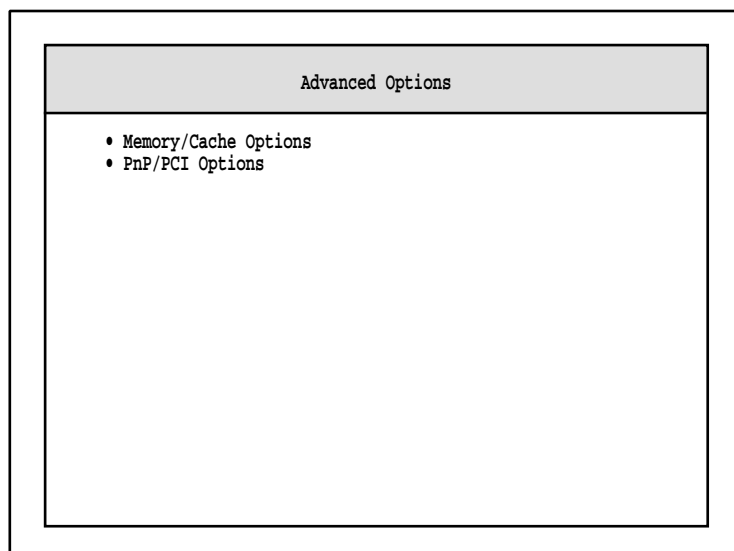
この項目を選択して [Enter] キーを押すと、イベントログを表示できます。

## Advanced Options

Advanced Options メニューは、システムボード上にあるデバイスの設定などを行います。

Advanced Level の場合に表示されるメニューです。

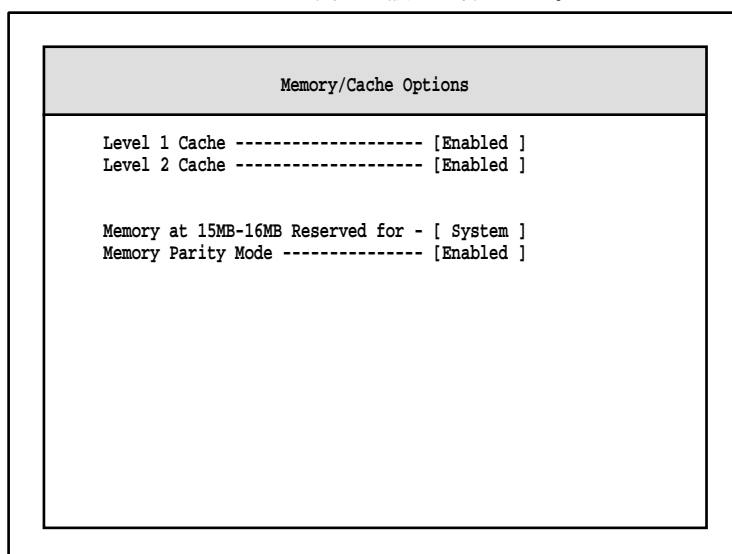
Advanced Options メニューを選択すると、次の画面が表示されます。



各メニューを選択すると、それぞれのサブメニュー画面が表示されます。

### Memory/Cache Options

メモリとキャッシュメモリに関する設定を行います。



#### Level 1 Cache

CPU の 1 次キャッシュ (L1) メモリの設定を行います。

- Enabled (初期値)  
キャッシュメモリを有効にします。
- Disabled  
キャッシュメモリを無効にします。



#### ポイント

本設定は初期値から変更しないでください。

#### Level 2 Cache

CPU の 2 次キャッシュ (L2) メモリの設定を行います。

この項目は Level 1 Cache を「Enabled」に設定した場合に設定可能になります。

- Enabled (初期値)  
キャッシュメモリを有効にします。
- Disabled  
キャッシュメモリを無効にします。



#### ポイント

本設定は初期値から変更しないでください。

#### Memory at 15MB-16MB Reserved for

メモリを実装している拡張カードを本ワークステーションに取り付けた場合、カードによってはカード上のメモリエリアと本ワークステーションのメモリエリアが衝突してしまうことがあります。衝突しているメモリエリアを拡張カードが必要としている場合は、拡張カード側にメモリエリアを割り当てます。

- System (初期値)  
15MB-16MB 間の 1MB を本ワークステーションに割り当てます。
- Add-on Card  
15MB-16MB 間の 1MB を拡張カードに割り当てます。

#### Memory Parity Mode

メモリのエラー検出 / 訂正を設定します。

- Disabled  
エラー検出 / 訂正をしません。
- Enabled (初期値)  
読み出したデータのエラー検出 / 訂正をします。

## PnP/PCI Options メニュー

システムボード上の PCI バスに関する設定を行います。

PnP/PCI Options				
PCI IRQ Setting -----	[ Auto ]			
	INTA	INTB	INTC	INTD
PCI Slot 1 -----	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 2 -----	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 3 -----	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 4 -----	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 5 -----	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI IRQ Sharing -----	[Yes]			
VGA Palette Snoop -----	[Disabled]			
Graphics Aperture Size -----	[64] MB			
Plug and Play OS -----	[No ]			
Reset Resource Assignments -----	[No ]			

## PCI IRQ Setting

PCI カードの割り込みレベル (IRQ) を設定する項目です。PCI カードを新たに搭載する場合、および IRQ を共用する場合には「Manual」を設定して、使用する IRQ を変更します。

- Auto (初期値)  
自動的に設定します。IRQ に関する設定項目は、灰色の文字で表示され、設定できなくなります。
- Manual  
手動で設定します。

## PCI Slot 1 / PCI Slot 2 / PCI Slot 3 / PCI Slot 4 / PCI Slot 5

PCI カードを取り付けるときに、個別に割り込みレベルを表示します。

- -- / 05 / 09 / 10 / 11

## PCI IRQ Sharing

複数の PCI カードで IRQ を共有させるかどうかを設定します。

- Yes (初期値)  
IRQ を共有させます。
- No  
IRQ を共有させません。

#### VGA Palette Snoop

ワークステーション本体のビデオコントローラのパレット情報(画面に表示する色を定義した情報)を、グラフィックスアクセラレータなどのビデオコントローラからも参照できるように設定します。

- Enabled  
パレット情報を参照します。
- Disabled (初期値)  
パレット情報を参照しません。

#### Graphics Aperture Size

グラフィックスアクセラレータが使用可能なメモリ領域の最大値を設定します。

- 4/8/16/32/64/128/256MB (初期値 : 64)

#### Plug and Play OS

Plug and Play OS を使用しているかどうかを設定します。

- Yes  
Plug and Play OS を使用している場合
- No (初期値)  
Plug and Play OS 以外の OS を使用している場合



#### ポイント

Windows 2000 の場合「No」を選択してください。

#### Reset Resource Assignments

PCI カードに割り当てられたリソースをリセットするかどうかを設定します。

- Yes  
リソースをリセットします。
- No (初期値)  
リソースをリセットしません。

## Load Default Settings

Load Default Settings メニューは、設定値を標準状態に戻します。

### 設定方法

- 1 メインメニューから、[ F8 ] キーで Load Default Settings を選択して、[Enter] キーを押します。  
次のメッセージが表示されます。

Do you want to load default Settings?

- 2 [ F8 ] キーで [Yes] か [No] にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。  
標準の設定値に戻すには、[Yes] を選択します。戻したくない場合は、[No] を選択します。

## Abort Settings Change

Abort Settings Change メニューでは、BIOS 設定ユーティリティ内で、設定値の変更をキャンセルします。

### 設定方法

- 1 メインメニューから、[ F8 ] キーで Abort Settings Change を選択して、[Enter] キーを押します。  
次のメッセージが表示されます。

Do you want to abort settings change?

- 2 [ F8 ] キーで [Yes] か [No] にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。  
設定値の変更をキャンセルするには、[Yes] を選択します。キャンセルしない場合は、[No] を選択します。

## パスワードを忘れてしまったときには

Security メニューで設定したパスワードを忘れてしまい、起動やセットアップができなくなったら、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。





# 4 困ったときに

この章は、本ワークステーションを使用していて思うように動かないときなどに、どうすればよいかを説明しています。

## Contents

1 エラーメッセージ .....	106
2 こんなときには .....	109
3 どうしても解決できないときは .....	111

# 1 エラーメッセージ

ここでは、本ワークステーションが表示するエラーメッセージの対処方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

## エラーメッセージ

エラーメッセージが表示された場合やイベントログに記録された場合は、エラーメッセージを確認し、次の処置を行ってください。

- BIOS セットアップを実行する  
BIOS に関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを再実行してください。
- 内蔵オプションの取り付けを確認する  
オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込みレベルなど正しく設定されているかどうかも確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルも併せて参照してください。

上記の処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員、または担当保守員へ連絡してください。

以下に、エラーメッセージを示します。

エラーメッセージ	意味と対処方法
CMOS Battery Bad	バッテリーの交換が必要です。担当保守員に連絡してください。
CMOS Checksum Error	BIOS セットアップを再実行してください。
CPU BIOS Update Code Mismatch	担当保守員に連絡してください。
CPU Clock Mismatch	何らかの理由で CPU 周波数が変更されました。担当保守員に連絡してください。
CPU Fan Bad	CPU ファンが異常です。担当保守員に連絡してください。
CPU Temperature out of Warning Degree	CPU 温度が注意温度を超えました。電源を切断し、設置環境を見直すか、または担当保守員に連絡してください。
CPU Voltage out of Range	CPU 電圧が異常です。担当保守員に連絡してください。
Floppy Drive [A/B] Error	フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。
Equipment Configuration Error	BIOS セットアップを再実行してください。
Event Log area Full	BIOS セットアップでイベントログエリアを消去してください。

エラーメッセージ	意味と対処方法
Expansion ROM Allocation Fail	PCI デバイスに割り当てられている I/O 拡張 ROM アドレスに競合が発生しています。担当保守員に連絡してください。
Floppy Drive(s) Write Protected	BIOS セットアップを再実行し、フロッピーディスクに対する書き込みを Normal にしてください。
Hard Disk Drive(s) Write Protected	BIOS セットアップを再実行し、ハードディスクに対する書き込みを Normal にしてください。
I/O Parity Error	担当保守員に連絡してください。
I/O Resource Conflict	システムリソース (I/O ポートアドレス) が競合しています。 BIOS セットアップを再実行し、システムリソースの設定を見直してください。
IDE Primary Channel Master Drive Error IDE Primary Channel Slave Drive Error IDE Secondary Channel Master Drive Error IDE Secondary Channel Slave Drive Error	IDE ディスクまたは CD-ROM ドライブのケーブルが正しく接続されているか確認してください。
IRQ Setting Error	PCI デバイスの割り込みに衝突が発生しています。 BIOS セットアップを実行してリソースの再設定を行ってください。
Insert system diskette and press <Enter> key to reboot	起動可能なフロッピーディスクがセットされていません。 起動可能なフロッピーディスクを入れるか、ハードディスクから起動する場合は、フロッピーディスクを抜いてから起動してください。
Memory Resource Conflict(s)	システムリソース (メモリ) が競合しています。 BIOS セットアップを再実行し、システムリソースの設定を見直してください。
On Board xxx ... IRQ Conflict(s)	システムリソース (IRQ、DMA チャンネル、I/O ポートアドレス) が競合しています。BIOS セットアップを再実行し、システムリソースの設定を見直してください。
On Board Parallel Port IRQ Conflict	BIOS セットアップを再実行して、パラレルポートのリソースを再設定してください。
On Board Serial Port [1/2] IRQ Conflict	BIOS セットアップを再実行して、シリアルポートのリソースを再設定してください。
PS/2 Keyboard Error or Not Connected	キーボードが正しく接続されているか確認してください。
PS/2 Keyboard interface Error	キーボードが正しく接続されているか確認してください。
PS/2 Pointing Device Error	マウスが正しく接続されているか確認してください。

エラーメッセージ	意味と対処方法
PS/2 Pointing Device Interface Error	マウスが正しく接続されているか確認してください。
Press Ctrl_Alt_Esc key to enter SETUP or F1 key to continue...	BIOS セットアップを再実行してください。
Press ESC to turn off NMI, or any key to reboot	【Esc】キーを押してから、任意のキーを押して、再起動してください。イベントログを参照し、担当保守員に連絡してください。
RAM Parity Error	担当保守員に連絡してください。
Real Time Clock Error	担当保守員に連絡してください。
+3.3V/+5V/+12V Voltage out of Range	システム電圧が異常です。担当保守員に連絡してください。
Unread Event Log(s) Found	未読のイベントログがあります。BIOS セットアップを実行して、イベントログを参照後、担当保守員に連絡してください。

## 2 こんなときには

ここでは、各機能に関するトラブル情報について記載しています。必要に応じてお読みください。

- アクセス表示ランプがつかない  
本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員または担当保守員にご相談ください。
- 画面に何も表示されない  
次のことを確認してください。
  - ディスプレイの電源が切れていませんか。  
電源スイッチを押してください。
  - 省電力モードが設定されていませんか。  
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
  - ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」( 31 ページ)を参照してディスプレイのケーブルを正しく接続してください。
  - ディスプレイの電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」( 31 ページ)を参照して電源ケーブルを正しく接続してください。



ケーブルは、必ず電源を切ってから接続し直してください。  
感電の原因となります。

- ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。
- 画面が揺れる  
近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか。強い磁界が発生するものは、ディスプレイから離して置いてください。
- 画面の両サイドが欠ける  
使用するディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。
- フロッピーディスクの読み込み、書き込みができない  
次のことを確認してください。
  - フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか。クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください(「付録 5 お手入れ」の「フロッピーディスクドライブのクリーニング」( 123 ページ) 参照)。
  - フロッピーディスクが書き込み禁止になっていませんか。フロッピーディスクのライトプロテクトノッチを書き込み可能な位置にしてください。

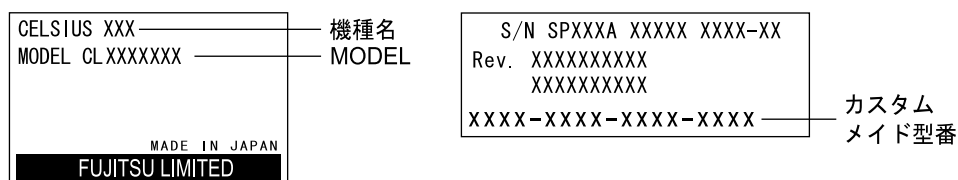
- 電源が入らない、前面にある電源ランプがつかない  
次のことを確認してください。
  - 電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。確認してください。
- CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブから、データの読み込みができない。  
次のことを確認してください。
  - CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW（以下まとめて媒体とします）をトレイの中央に正しくセットしていますか。媒体のレーベル面を上にして、セットし直してください。
  - 媒体が表裏逆に入っていないですか。媒体のレーベル面を上にして、正しくセットしてください。
  - 媒体が汚れていたり、結露または水滴がついていたりしていませんか。乾いた柔らかい布で中央から外側に向かって拭いてください。
  - 媒体に傷がついていたり、極端にそっていたりしていませんか。そのような場合には、媒体を交換してください。
  - 規格外の媒体を使用していないですか。規格に合った媒体を使用してください。
- キーボードから入力した文字が表示されない  
キーボードは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」( 31 ページ)を参照し、確認してください。
- マウスカーソルが動かない  
マウスは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」( 31 ページ)を参照し、確認してください。
- マウスの中ボタンが動作しない  
標準添付されている3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応アプリケーションを使用しているときにのみ動作します。したがって通常は中ボタンは機能しません。ご了承ください。
- ネットワークに接続できない  
次のことを確認してください。
  - ネットワークケーブルが正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」( 31 ページ)を参照し、確認してください。
  - 100Mbps で通信している場合、カテゴリ5のUTPケーブルをお使いですか。カテゴリ5のUTPケーブルをお使いください。
  - ハブユニットのACT/LNKランプが点灯していますか。ハブユニットを確認してください。
  - TCP/IP プロトコルをお使いの場合、Ping コマンドを使って接続できているか確認してください。

### 3 どうしても解決できないときは

どうしても原因がわからないときや、元の状態に戻せないときは、担当営業員または担当保守員へ連絡してください。なお、お問い合わせ前に機種名 / MODEL / カスタムメイド型番を確認してください。

#### 機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所

ワークステーション本体背面のラベルに記載されています。



## お問い合わせ前の確認シート

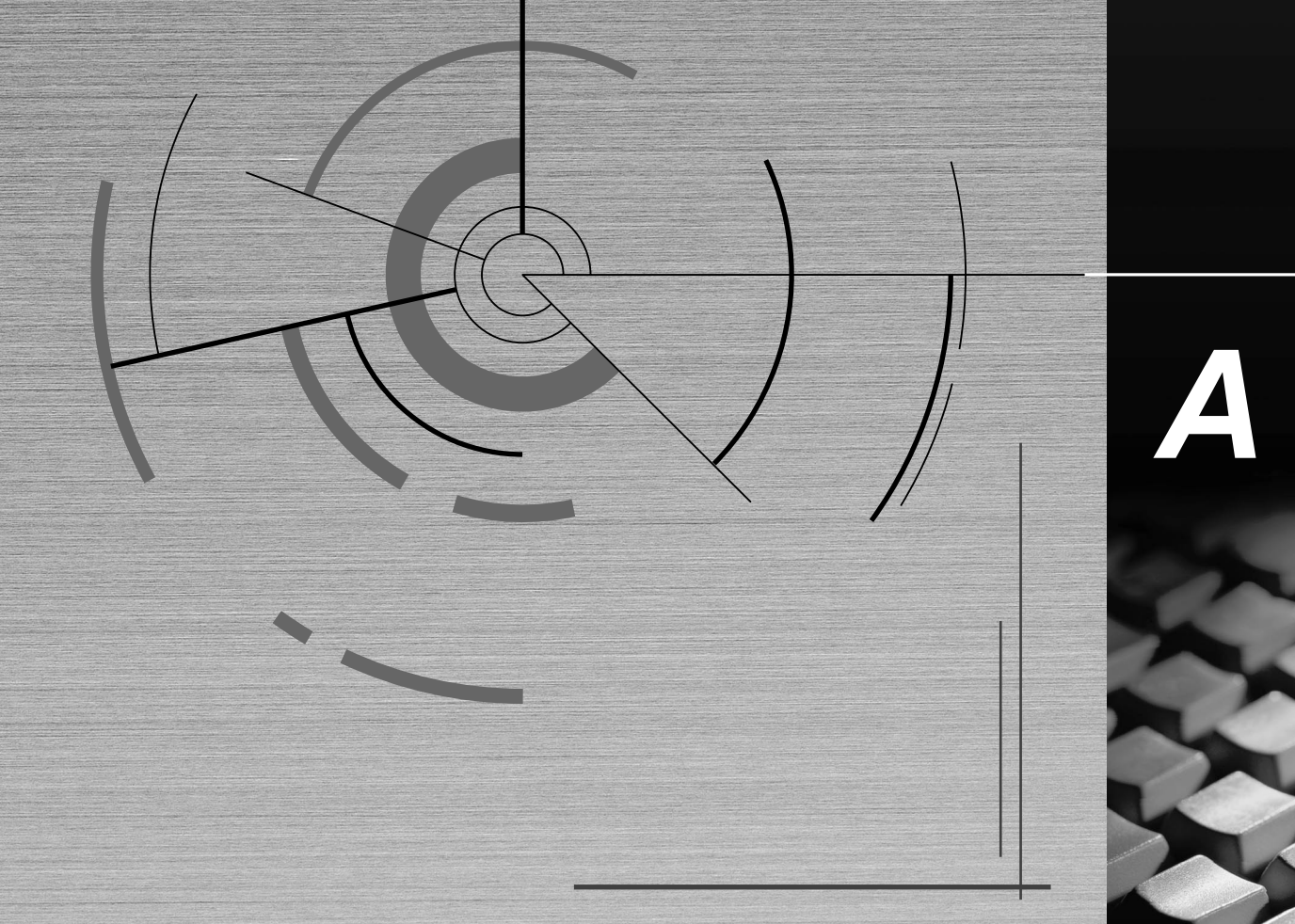
### お客様の環境

お使いのワーク ステーションの 機種は？	機種名：CELSIUS		MODEL：
	カスタムメイド型番：		
	購入日：		
メモリの容量は？	本体標準：MB		
	増設：MB	[ メーカー： ] [ 型番： ]	
増設した 周辺機器は？	種類	型番号	メーカー
お使いの ソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン / レベル	メーカー

### トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は何ですか？	
以前は問題なく 動作していましたか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前は動作した</li> <li>・ 今回初めて試した</li> <li>・ 以前から動作しない</li> </ul>





# 付録

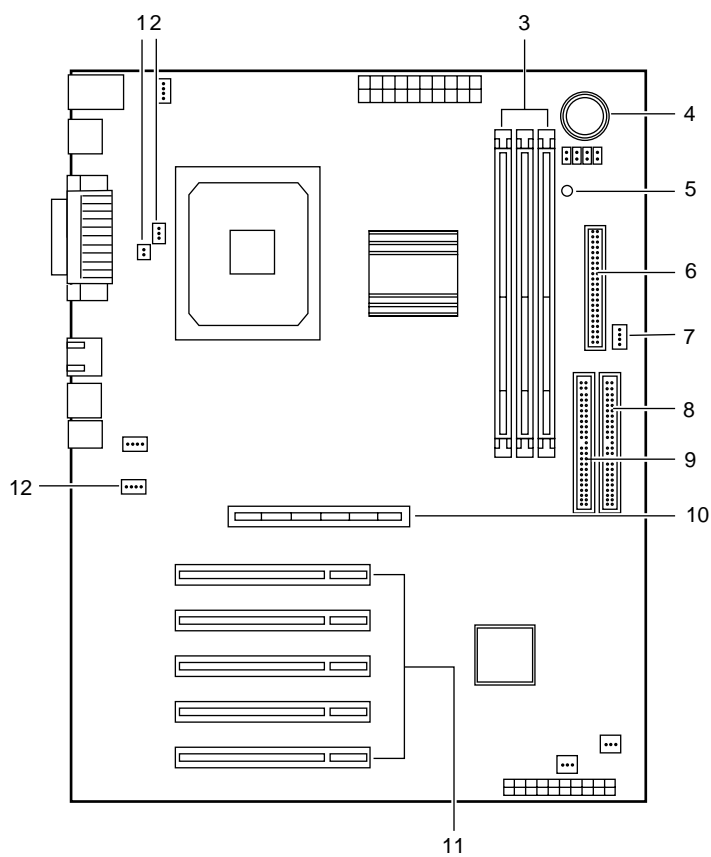
## Contents

1 システムボード .....	114
2 リソース一覧 .....	116
3 ドライブの設定 .....	117
4 コネクタ仕様 .....	118
5 お手入れ .....	121
6 保守修理サービスのご案内 .....	124
7 保証について .....	125
8 その他の注意事項 .....	126

# 1 システムボード

---

システムボード



- 1 センサコネクタ (プロセッサ用)
- 2 ファンコネクタ (プロセッサ用)
- 3 DIMM スロット  
図中右から 1 ~ 3 と並んでいます。
- 4 内蔵バッテリー  
本ワークステーションのセットアップ設定値を保存するためのバッテリーです。  
標準の使用状態で約 5 年間お使いになれます。
- 5 電源インジケータ LED  
電源が入っているときに点灯します。
- 6 フロッピーコネクタ  
フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。
- 7 ファンコネクタ (SYS 用)
- 8 セカンダリ IDE コネクタ  
セカンダリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 9 プライマリ IDE コネクタ  
プライマリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 10 AGP スロット  
グラフィックスカードを取り付けます。
- 11 PCI スロット  
PCI カードを取り付けます。図中上から、PCI スロット 1 ~ 5 と並んでいます。
- 12 AUDIO 入力コネクタ  
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブからの AUDIO ケーブルを接続します。

## 2 リソース一覧

本ワークステーションの出荷時の割り込みレベル（IRQ）、DMA チャンネル、I/O ポートアドレスの使用状況は次の通りです。

IRQ	使用状況
0	システムタイマ
1	キーボード
2	IRQ8 ~ 15 をカスケード接続
3	シリアルポート 2
4	シリアルポート 1
5	
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	
10	
11	
12	マウス
13	数値演算コプロセッサ
14	プライマリ IDE
15	セカンダリ IDE

：PCI デバイス（ビデオカード、LAN、SCSI、サウンド等）

割り込みレベルは自動割り当てのため、カスタムメイドオプションの選択によって割り当てが異なります。

DMA	使用状況
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	空き
4	DMA0 ~ 3 をカスケード接続
5	空き
6	空き
7	空き

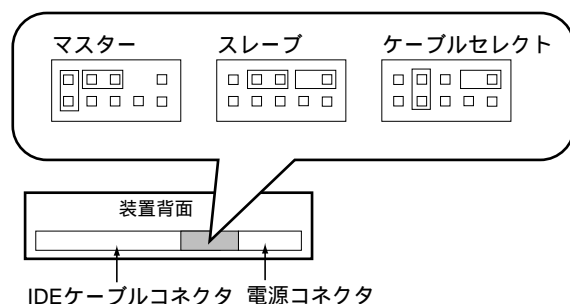
I/O ポートアドレス	使用状況
02F8h ~ 02FFh	シリアルポート 2
03F0h ~ 03F5h, 03F7h	フロッピーディスクコントローラ
0378h ~ 037Bh	パラレルポート
03F8h ~ 03FFh	シリアルポート 1

### 3 ドライブの設定

#### ハードディスクドライブの設定

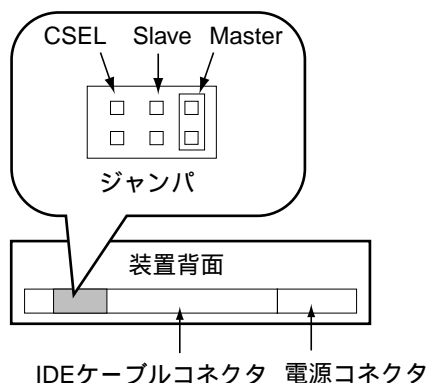
ショートは、ショートピンを差し込みます。  
オープンは、ショートピンを差し込みません。

- IDE ハードディスクの設定



#### CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブの設定

ショートは、ショートピンを差し込みます。  
オープンは、ショートピンを差し込みません。



Master (マスター)	ショート (出荷時)
Slave (スレーブ)	オープン
CSEL (ケーブルセレクト)	オープン

#### その他のドライブの設定

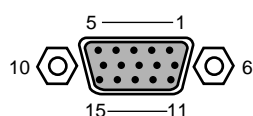
その他のドライブの設定は、オプションに添付されているマニュアルを参照してください。

## 4 コネクタ仕様

各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

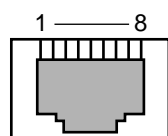
### ディスプレイコネクタ

- Millennium G400



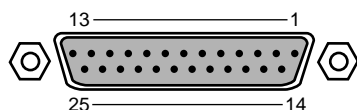
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グランド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

### LAN コネクタ



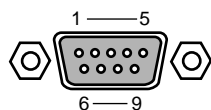
ピン No.	信号名	方向	内容
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	-	未接続
5	NC	-	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	-	未接続
8	NC	-	未接続

## パラレルコネクタ



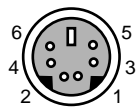
ピン No.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ 0
3	DATA1	入出力	データ 1
4	DATA2	入出力	データ 2
5	DATA3	入出力	データ 3
6	DATA4	入出力	データ 4
7	DATA5	入出力	データ 5
8	DATA6	入出力	データ 6
9	DATA7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	-	グラウンド

## シリアルコネクタ



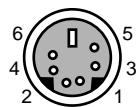
ピン No.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

## マウスコネクタ



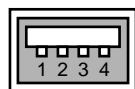
ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

## キーボードコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

## USB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グランド



## 5 お手入れ

---

本ワークステーションのお手入れのしかたは、次のとおりです。



感 電



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。

### ワークステーション本体のお手入れ

---

柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。

通風孔にほこりがたまらないように、掃除機でほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

### キーボードのお手入れ

---

柔らかい布でから拭きします。

### CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のお手入れ

---

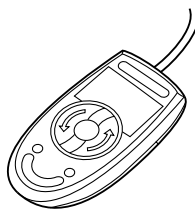
柔らかい布で、中央から外側に向かってから拭きします。汚れがひどいときは、柔らかい布を薄い石けん水に浸し、固くしぼって汚れを拭き取り、その後柔らかい布でから拭きしてください。

## マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

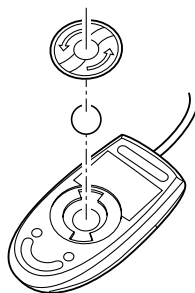
### 1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



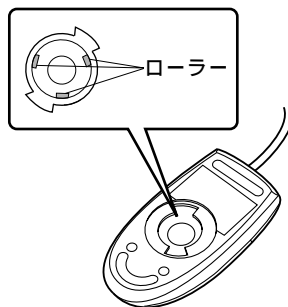
### 2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



### 3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



## フロッピーディスクドライブのクリーニング

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サブライ品）のクリーニングフロッピーを使い、3 カ月に 1 回程度の割合でクリーニングしてください。

品名	商品番号
クリーニングフロッピーマイクロ	0212116

### フロッピーディスクドライブのクリーニング方法

- 1 フロッピーディスクドライブにクリーニングフロッピーをセットします。
- 2 Windows NT / Windows 2000 のコマンドプロンプトから dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。  
例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
dir a:
```

## 6 保守修理サービスのご案内

---

弊社では、保守修理サービスとして、次の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。

お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びのうえ、担当営業員または担当保守員にお申し込みください。

### 契約サービス

お客様と契約に基づき、装置管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

#### 定期保守サービス

トラブルを未然に防止するとともに、装置の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。

業務にご利用の場合などで、装置の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。

#### 定額訪問修理サービス

万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。

#### 定額点検サービス

トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。

点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

### スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

#### スポット訪問修理サービス

お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。

修理料金はその都度ご精算いただきます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。

アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

## 7 保証について

---

本ワークステーションの保証について説明します。

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理を依頼されるときには、必ず保証書をご用意ください。
- 本ワークステーションの保守部品の供給期間は、製造終了後 6 年間とさせていただきます。
- 部品の寿命による故障が発生する前に、予防交換を行う必要があります。交換周期は部品によって異なりますが、ハードディスクでは 20,000 時間の通電が目安となります。

## 8 その他の注意事項

---

### インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて

インテルプロセッサ・シリアル・ナンバは、Intel Pentium III Processor に組み込まれた電氣的に読み取り可能なシリアル番号で、WEB 上でのセキュリティ向上や情報管理、資産管理などに利用できます。

プロセッサ・シリアル・ナンバをソフトウェアアプリケーションを使用して読み取ることができます。この読み取り機能は、BIOS セットアップで「有効」/「無効」を設定できます。なお、出荷時は「無効」に設定されています。

本機能を「有効」にしたい場合は、「Processor Serial Number」を「Enabled」に設定してください。

プロセッサ・シリアル・ナンバの詳細については、

<http://www.intel.com/jp/pentiumiii>

をご覧ください。

### SCSI カード追加機構を使用する場合の注意事項

- SCSI カードを使用する場合は内蔵 SCSI 装置と外付け SCSI 装置は同時に接続できませんのでご注意ください。  
内蔵 SCSI 装置、外付け SCSI 装置の双方を使用される場合は、異なる SCSI カードに接続してください。
- 外付け SCSI 装置を接続する場合は 2 台までしか接続できません。外付け SCSI 装置を 3 台以上接続する場合は複数の SCSI カードに分けて接続してください。  
なお、外付け SCSI 装置を接続する場合に使用するケーブルは接続装置によって異なります。以下に示すものを使用してください。

### [ 68pin(Wide)SCSI 装置を接続する場合 ]

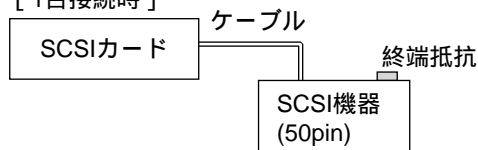
68pin(Wide)SCSI 装置を接続される場合、SCSI 装置に添付されております SCSI ケーブル及び終端抵抗を使用して接続してください。  
この場合、50pin(Narrow)SCSI 装置は接続できません。



### [ 50pin(Narrow)SCSI 装置を接続する場合 ]

50pin(Narrow)SCSI はコネクタの形状として、フルピッチとハーフピッチの 2 種類があります。接続される場合、以下に示すものを選択してください。

#### [ 1台接続時 ]



ケーブル	SCSI 装置	終端抵抗
GP5-832	フル	FMV-692
GP5-833	ハーフ	FMV-695

#### [ 2台接続時 ]



ケーブル 1	SCSI 機器 1	ケーブル 2	SCSI 機器 2	終端抵抗
GP5-832	フル	FMB-CBL831	フル	FMV-692
		FMS-834	ハーフ	FMV-695
GP5-833	ハーフ	FMS-834	フル	FMV-692
		FMV-CBL32	ハーフ	FMV-695

- 内蔵 SCSI 装置を接続する場合は SCSI カードに添付されております SCSI ケーブルをご使用ください。
- SCSI カードに添付されておりますマニュアル (ユーザーズガイド/インストールガイド) は本カードの全体に対し記している汎用のマニュアルです。CELSIUS ワークステーションとしてのサポート範囲を越えた記述がありますので、参考としてお読みください。
- 本カードは「Adaptec SCSI Select Utility」にて SCSI 設定の変更が可能です。「Adaptec SCSI Select Utility」の詳細につきましては本カードに添付されております「ユーザーズ・ガイド」を参照してください。





# 索引

---

## え

エラーメッセージ ..... 106

## お

お手入れ ..... 121

## か

拡張カードの取り付け ..... 60

拡張カードの取り外し ..... 61

## き

キーの役割 ..... 74

キーボードコネクタ ..... 120

キーボードの接続 ..... 32

## け

契約サービス ..... 124

## さ

サイドカバーの取り付け ..... 53

サイドカバーの取り外し ..... 52

## し

システムボード ..... 114

受信障害防止 ..... 30

シリアルコネクタ ..... 119

## す

スポット保守サービス ..... 124

## せ

接続 ..... 31

設置 ..... 28

## て

ディスプレイケーブルの接続 ..... 33

ディスプレイコネクタ ..... 118

ディスプレイの電源ケーブルの接続 ..... 35

電源ケーブルの接続 ..... 34

電源スイッチ ..... 38

電源の入れかた ..... 36

電源の切りかた ..... 39

## な

内蔵ハードディスクベイ ..... 68

内蔵ハードディスクベイの取り付け ..... 70

内蔵ハードディスクベイの取り外し ..... 66

## は

ハードディスク ..... 48

パスワード ..... 103

パラレルコネクタ ..... 119

## ふ

ファイルベイからのドライブの取り外し ..... 65

ファイルベイへのドライブの取り付け ..... 64

プロセッサシリアルナンバ ..... 126

フロッピーディスク .....	43
フロントカバーの取り付け .....	53
フロントカバーの取り外し .....	52

## ほ

保守修理サービス .....	124
保証 .....	125

## ま

マウスコネクタ .....	120
マウスの接続 .....	32

## め

メモリの取り付け .....	56
メモリの取り外し .....	57

## り

リソース .....	116
------------	-----

## わ

ワークステーション本体前面の各部の名称 .....	22
ワークステーション本体内部の各部の名称 .....	26
ワークステーション本体の電源ケーブルの接続 .....	34
ワークステーション本体背面の各部の名称 .....	24
割り込みレベル .....	116

## A

Abort Settings Change .....	103
Advanced Options .....	99

## B

BIOS セットアップ .....	72, 73
Boot Options .....	91

## C

CD-ROM ドライブ .....	45
CD-ROM ドライブの設定 .....	117

## D

Date and Time .....	93
Disk Drives .....	80
DMA チャンネル .....	116
DVD-ROM ドライブ .....	45
CD-R ドライブの設定 .....	117
DVD-ROM ドライブの設定 .....	117

## I

I/O ポートアドレス .....	116
IDE ハードディスクの設定 .....	117
IRQ .....	116

## L

LAN ケーブルの接続 .....	32
LAN コネクタ .....	118
Load .....	103
Load Default Settings .....	103

## O

Onboard Peripherals .....	84
---------------------------	----

## P

Power Management .....	88
Product Information .....	79

## S

SCSI カード追加機構 .....	126
System Event Log .....	97
System Information .....	77
System Security .....	94

## U

USB コネクタ .....	120
----------------	-----

---

CELSIUS 421  
ハードウェアガイド

P3F1-0580-01-02

発行日 2001 年 1 月  
発行責任 富士通株式会社  
Printed in Japan

---

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。  
本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利  
の侵害については、当社はその責を負いません。  
無断転載を禁じます。  
落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。